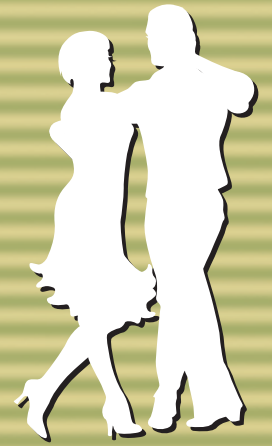


Dance ダンス Dance ダンス Dance ダンス



ショーン テイWDSF会長の
ニューイヤー・メッセージ

第38回三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権

第26回都道府県対抗 全国ダンススポーツ大会in福井

ねんりんピック富山2018



公益社団法人
日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

2019 No. 90





来たときよりもキレイに!

～スポーツの心、環境と未来へ～



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
公益財団法人 日本オリンピック委員会





ルーカス・ヒンダー (Lukas Hinder) 会長に代わり、ショーン・テイ (Shawn Tay) 氏がWDSF (世界ダンススポーツ連盟) 新会長に就任されました。

2018年11月17日、オーストリアの世界選手権の開会式において正式に引き継がれたショーン・テイ氏は、会長就任に際し、ダンススポーツ (DanceSport) のあらゆる分野での貢献を誓うとともに、役員とその家族の支援に感謝を述べました。そして、ルーカス・ヒンダー氏には、その功績を讃えられ、生涯名誉会長の称号が贈られました。

Dear friends of DanceSport,

JDSF made history by hosting the first-ever WDSF World Youth Breaking Championship in 2018 to qualify athletes to the YOG. Again at the YOG, Japan made history by winning Gold and Bronze medals in a DanceSport Discipline in an Olympic Games. These successful events will be the motivating factors for all JDSF athletes and officials to work even harder and break through in many other aspects in the years to come.

The early generation of Japanese dancers have been pioneering the competition scene in Asia with their increasingly high level of dancing. With their experience and knowledge, they have laid the foundation in the education and training system for the new generation of athletes. The time has come to tackle the changes in lifestyle and demands, and meet the need to repackage DanceSport, modifying organisational structures and competition formats, in order to attract more interest to further strengthen the position of JDSF in the world of sports.

JDSF has been very successful in incorporating the other disciplines to make JDSF events more attractive to all. With the many changes that we will make in the sporting system of the WDSF in this coming year, WDSF needs the support of Japan in incorporating all these improvements.

It has been a great pleasure for me to work with many of my Japanese colleagues on many past projects. With our achievement in the YOG in 2018, our successful cooperation in FISE Games in 2018, as well as the WDSF World Youth Breaking Championships, we can expect more opportunities for greater involvement of JDSF in many other DanceSport projects.

During this festive season, I would like to extend my warmest wishes to all my colleagues in the management of the JDSF, all officials and athletes. Together, we will be able to reshape the landscape for the future of DanceSport.

Best Wishes

Shawn Tay
WDSF President

DanceSport会員の皆様、

JDSFは、2018年に史上初のWDSF世界ユースブレイキンチャンピオンシップを開催し、ユース五輪 (YOG) 出場選手を選出認定しました。そのYOGにおいて日本はダンススポーツ分野でオリンピック初の金メダルと銅メダルを獲得し、新たな歴史を築きました。この成功事例は、すべてのJDSFアスリートと役員により、今後あらゆる課題を突破するモチベーション要因となるでしょう。

初期世代の日本の競技選手は、より高いレベルのダンスでアジアの競技シーンの先駆者となってきました。彼らの経験と知識により、彼らは新世代のアスリートのための教育訓練システムの礎を築きました。ライフスタイルや求められるものの変化に取り組み、より多くの関心を引き、スポーツの世界におけるJDSFの地位をさらに確固にするために、DanceSportを再パッケージ化し、組織構造や競技形式を修正する必要性を見直す時期が来ました。

JDSFは、JDSFのイベントを非常に魅力的なものにするために他の分野を取り入れることに成功して来ました。来年度にはWDSFのスポーツシステムに多くの変更を加えるため、WDSFはこれらすべての改善を取り入れるべく日本からより多くの支援を必要としています。

これまでも大勢の日本の同僚と共に過去の多くのプロジェクトに従事したことは私にとっても大きな喜びでした。2018年のYOGでの成果、2018年のFISEゲームへの協力の成功、そしてWDSF世界ユースブレイキンチャンピオンシップにより、他の多くのDanceSportプロジェクトにJDSFがより多く参加する機会を期待しております。

年頭にあたり、JDSFの管理に携わっている皆様、すべての審判役員、そしてアスリートたちに私の心からの祝意を申し上げたいと存じます。さらに一致団結しDanceSportの未来のために新たなシーンにできることを祈っています。

ショーン・テイ
WDSF会長

第38回三笠宮杯 全日本ダンススポーツ選手権

2018年11月25日(日) / 駒沢オリンピック公園総合運動場体育館

満員の観衆

三笠宮杯は、長年にわたりダンススポーツの良き理解者であり、ダンスの名手としてもご活躍された三笠宮殿下から、1980年に本連盟総裁にご就任されたことを記念して、御下賜されました。第1回大会は、1981年に、'81テンカップとして三笠宮殿下、百合子妃殿下のご臨席のもとで開催されました。爾来、殿下のご意志を受継ぎ、国体・オリンピック参加を目指し、名実ともにダンススポーツの国内最高峰の名誉ある大会に発展しました。全日本選手権として毎年欠かさず開催されています。

大会は東京オリンピック・2020パラリンピックの施設改修等の都合により、東京体育館から駒沢オリンピック公園総合運動場体育館に会場を移し、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団との共催で開催されました。午前中から多数の観客が集いチケットは完売、グランドセレモニーの始まる15時頃には約4千人の大観衆で埋まり熱気あふれる大会となりました。

主催者を代表し、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟(JDSF) 齊藤斗志二会長は、「ユースオリンピック正式種目となったダンススポーツ・ブレイキンで金メダル2個、銅メダル1個獲得。プエノスアイレスの空に“日の丸”が輝き、“君が代”が演奏されました。Mixでは特別の国際混合チーム編成であり、表彰式では金銀銅に3本の五輪の“オリンピック旗”が掲揚されました。ダンススポーツはいよいよオリンピック本番のチャンスが巡ってきました」と挨拶。続いて公益財団法人東京都スポーツ文化事業団早崎道晴事

務局長は「全国からお集まりの選手・役員の皆さま、館内満員のお客さま、心から歓迎申し上げます。選手は存分の力を発揮し、ダンススポーツの素晴らしさを見せていただきたい」と挨拶されました。

また、秋元司衆議院議員(JDSF顧問・ダンス文化推進議員連盟事務局長、環境副大臣兼内閣府副大臣)から、「ダンススポーツの魅力を広げダンスの振興を図りオリンピック競技種目になるように頑張りたい。益々のご発展を!」とのご祝辞を賜りました。



秋元司衆議院議員 (JDSF顧問、環境副大臣 兼内閣府副大臣) 齊藤斗志二 公益社団法人日本ダンススポーツ連盟 (JDSF) 会長 早崎道晴 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団事務局長



優勝カップ返還



田口綾弓さんによる国歌独唱



篠田龍佑大会実行委員長による開会宣言

ご来賓を代表し、特別協賛いただいている(株)ブルボン吉田康社長からは「第38回三笠宮杯の開催、心からお慶び申し上げます。2007年よりJDSFに協力を始め、2012年から特別協賛として由緒ある大会に継続して取り組ませいただき大変光栄です。ブルボンは特にジュニア・ユースの次世代育成にも努めてまいります」とのご挨拶をいただきました。

吉田社長は、平成30年秋の叙勲・褒章において藍綬褒章を受章され、お祝いの花束が山田淳専務知事から贈呈されました。



吉田康(株)ブルボン代表取締役社長

山田淳専務理事からお祝いの花束贈呈



総合ディスカウントストアローチャースの映像

ブルボンコーナーのお楽しみお菓子



特別ショー

8月、振付師の祭典“Legend Tokyo Chapter.8”において最優秀作品賞に輝いたMIWAの作品“美恋祭”(びふうさい)

シニアチャンピオン名越組の引退発表

シニアラテンチャンピオンとして、ロペスとキンタロー。こと岸 英明・田中志保組(東京都)と競い、シニア世界選手権などで数々のTV番組にも出演し活躍された名越慎悟・名越明子組(神奈川県)の引退発表があり、花束の贈呈、仲間の胴上げが行なわれました。

「大勢の観客の皆様や選手達に囲まれて現役を引退することができて、とても嬉しく涙が止まりませんでした」



三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権

前回大会で2連覇を果たしたスタンダード小嶋組とラテン藤井組の3連覇なるか注目の戦いでしたが、小柄ながら優れたキレのあるステップワーク、スピードとダイナミックな動きでタンゴのソロ競技から快調に飛ばしクイックのグループ競技まで全力で踊り切った小嶋組が優勝、ラテンは

自信に溢れた踊りで5種目全てに最高点を獲得した藤井組が優勝、いずれも3連覇を果たしました。大西組はラテン、スタンダード共に惜しくも準優勝、長身の菅原組はカップルバランスも安定し共に第3位と健闘、いずれも昨年より順位を上げました。



優勝

小嶋みなと・盛田めぐみ組(神奈川県)



準優勝

大西大晶・大西咲菜組
(東洋大学/富山県)

菅原一樹・
Laura Collavizza組
(東京都)



三笠宮杯 全日本ダンススポーツ選手権 スタンダード

五月女光政・五月女叡佳組
(ブルボンDST)

第4位

第6位

第5位

第3位

山田恭平・秋山彩織組
(東京都)

棚橋 健・盛田舞香組
(東京都)

三笠宮杯 全日本ダンススポーツ選手権 ラテン



第4位

海老原拳人・タカギ ルナ組
(千葉県/早稲田大学)



第3位

菅原一樹・
Laura Collavizza組(東京都)



準優勝

大西大晶・大西咲菜組
(東洋大学/富山県)



優勝

藤井創太・吉川あみ組(千葉県/東洋大学)



五月女光政・五月女叡佳組
(ブルボンDST)

第5位

第6位

鈴木奨太・鈴木千尋組
(千葉県)

全日本選手権ジュブナイル



スタンダード表彰式



ラテン表彰式

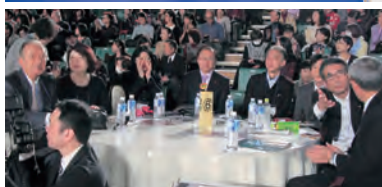


スタンダード・ラテン
優勝

津田琥汰朗・多和今日子組
(大阪府)



ご来賓の
皆様



毎日新聞社杯 全日本PDダンススポーツ選手権

昨年のスタンダードチャンピオンのオレクシー組に、ラテン優勝スタンダード準優勝の久保田組のチャレンジ、さらに、三笠宮杯スタンダード11連覇の石原正幸と三笠宮杯ラテン

8連覇の石原蘭羅（旧姓久保田）が結婚し新たなカップルとして5月の千葉県大会PD部門に優勝して現役復帰を果たし、スタンダードに参戦、非常に注目された競技となりました。

全日本PDダンススポーツ選手権 スタンダード



第6位

高橋一昌・高橋由紀子組
(幸手K&Yダンスクラブ)



第5位

第4位

山崎圭太・石本美奈子組
(エムズダンスアカデミー)



準優勝

石原正幸・石原蘭羅組(東京都)

第3位

久保田弓椰・徳野夏海組
(TEAM YUMIYA 北海道)



優勝

オレクシー グザー・
太田吏圭子組(東京都)



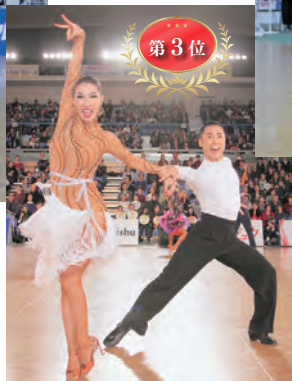
優勝

久保田弓椰・徳野夏海組
(TEAM YUMIYA 北海道)



準優勝

西村康宏・鳥尾綾香組
(航空公園舞ダンススクール)



第3位

新屋秀和・滝川絵理組
(ダンススタジオデポット)

全日本PDダンススポーツ選手権 ラテン



第4位

西 恭平・西川真由組
(シノダスポーツダンスクラブ)



第5位



第6位

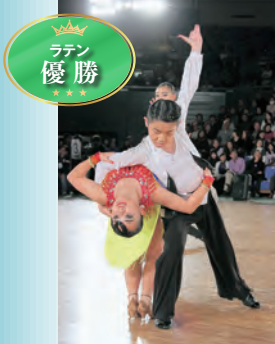
魚谷征義・宮島 愛組
(Studio La mer)

岸田 肇・岡田祐子組
(岸田ダンスアカデミー)



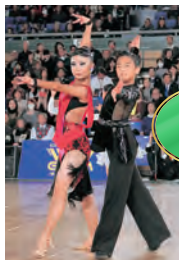
JOC ジュニアオリンピックカップ 全日本選手権ジュニア

優勝カップルには、JOC（公益財団法人日本オリンピック委員会）から優勝トロフィーが授与され、将来、オリンピックや世界選手権等において活躍が期待できる選手として、翌年度の「JOC オリンピック有望選手」に推挙されます。歴代の優勝カップルは全日本を代表する選手として活躍中です。



ラテン
優勝

高橋 海・和田享華組
(千葉県)



ラテン
第3位

小島獅桐・鈴木未来組
(群馬県)



ラテン表彰式



スタンダード
準優勝

ホワイトン謙心・
ホワイトン夏奈実組(神奈川県)



木下将希・
片岡まりの組
(千葉県)



スタンダード
優勝
ラテン準優勝

山本壮真・三喜真梨菜組
(愛知県)



スタンダード表彰式

第38回 三笠宮杯優勝インタビュー

◆全日本ダンススポーツ選手権 スタンダード 優勝 小嶋みなと・盛田めぐみ組(神奈川県)

「この優勝は応援してくれる皆さんをはじめ、多くの人たちのおかげだと強く感じています。3連覇を達成しましたが、若手の追上げはすごいというのが正直な感想です。今回、背中を痛めていましたが、決して守りに入っただけでなくと挑戦したのが結果を呼び寄せました。去年と同じ踊りでは絶対勝てないという環境が、自分たちをさらに先へ成長させてくれる原動力。これから周り以上に成長していき来年はさらに突き放すつもりです」(みなと選手)

「下の世代はもちろん、自分たちだってまだまだ伸び盛りで成長できる、というのをひしひしと感じています。頑張る分、伸びしろも大きいのが私たちですから！」(めぐみ選手)



◆全日本ダンススポーツ選手権 ラテン 優勝 藤井創太・吉川あみ組 (千葉県/東洋大学)

「率直に“うれしい”という気持ちでジーンとわき上がってきています。だいぶプレッシャーがありました。それほど試合に出ていませんでしたし、将来のことを考えながら、今年はラテン一本でと試してきたこと、2人とも大学生になりこれまでとは環境が変わり、若い世代もどんどん伸びてきています。そんな中セミファイヴぐらいからは、本当に自分たちの長所を活かした踊りができたのが良かったと思います」(創太選手)

「来年は今のレベルでは通用しない、そんな緊張感が私たちを進化させてくれています。今年の新しいドレスのコンセプトは“揺れるスカート”。それを精一杯感じていただけのように踊りました。進化し続け、自分たちの力をもっと引き出せるように頑張っていきます」(あみ選手)



◆全日本PDダンススポーツ選手権 スタンダード 優勝 オレクシー グザー・太田吏圭子組(東京都)



「アマ時代から数えると4連覇になります。ただ、今回は本当にプレッシャーが大きかった。やれることは100%やってきましたし体調も万全でしたが、GPで勝敗を分けてきた強力なライバルの存在もあった。結果はジャッジにまかせ、自分たちのベストを尽くして観客の皆さんに観てもらおうと踊った結果が、この優勝に結びついたと本当に嬉し

しさでいっぱいです」(オレクシー選手)

「駒沢は観客席が近くにあって、私たちも大好きなフロアです。お客さんたちのリアクションから素晴らしい力がもらえます。今年ずっと感じてきた大きなプレッシャーも、それだけ大きい力を与えてくれました。精神面のトレーニングで強くなりましたし、まだまだ自分たちの踊りをいいものにできるという確信も持てた大会。それでも“優勝”の声を聞いたとたん涙があふれてきました」(吏圭子選手)

◆全日本PDダンススポーツ選手権 ラテン 優勝 久保田弓椰・徳野夏海組(Team YUMIYA 北海道)

「やっと2年目のカップルでまだまだ通過点です。ただ確実に楽しくなってきたという実感があって、それがこの2連覇につながったと思います。コーチはもちろん、家族やパートナーの学校仲間、たくさんの応援の中で踊れたことが幸せ。そんな気持ちを踊りで表現できていたら嬉しいですね。それぞれのベースは北海道と茨城に分かれています。PDのライバルたちがどんどん増える中、毎日の練習をやりくりしてきた甲斐があったと思います」(弓椰選手)

「去年よりもっと思うように踊れる！ そんな風に確実に実感しています。スタンダードも合わせ“もう少しもう少し”と目標がみえるところまで近づいてきました。日本で、アジアでトップに、そして世界のファイナルへと、どんどん望みが大きくなっています」(夏海選手)



◆JOCジュニアオリンピックカップ全日本選手権ジュニア スタンダード 優勝 山本壮真・三喜真梨菜組(愛知県)中2



「すごく嬉しい優勝。そしてこの前のジュニア世界選手権で勝てなかったライバルの上に評価してもらったことも最高です。そのとき、自分たちの力を発揮できなかった悔しさをバネにして、まだまだよくできると思ったところを一つひとつ改善してきました。ヴェニーズワルツのスピード感到にワクワクします。来年もこのクラスでの連覇を目指します」(壮真選手)

「カップルを組んで5年、2人で頑張っています。私が好きなのはワルツとヴェニーズ。去年は準優勝、今年は優勝、でも世界はもっともっと先です。お互いに競い合うライバルが近くにいるので、それも励みになっています」(真梨菜選手)

◆JOCジュニアオリンピックカップ全日本選手権ジュニア ラテン 優勝 高橋海・和田享華組(千葉県)中1

「やっぱり得意なのはラテン。サンバが大好きで気持ちが乗ってきます。今日は絶好調で自分の力を出し切れました。やっぱり結果がついてきたという感じです。審査員にしっかりアピールできるように大きく踊れ、というアドバイスにも応えられたかな。自分たちの年内最後の大きな大会で優勝できてすごく満足です」(海選手)

「小学校4年生から一緒に踊っています。週に3回くらいの練習で、ときどきはぶつかることもあります。ただ、今年は世界選手権へ行って、本当にもっと頑張りたいって思いました。見た目では負けてしまいそうなら、それ以上に頑張らなきゃって気持ちで今日も踊りました」(享華選手)



◆全日本選手権ジュブナイル スタンダード・ラテン 優勝 津田琥汰朗・多和今日子組(大阪府)

「優勝できて本当に嬉しいです。いつもお姉ちゃんと組んで練習しているので、今日子ちゃんと一緒に踊ることでスタンダードもラテンも勝ったって思う気持ちがいっぱいになりました。いつも習っている先生も応援してくれたし、先生たちも今日は活躍していて、それすごく嬉しかったです」(琥汰朗選手)

「今年は夏の大会でも勝ったけれど、やっぱり三笠宮杯で優勝できたのは本当に素敵です。一所懸命やって良かったなって、優勝が決まったとたん琥汰朗くんとかハイタッチしちゃいました」(今日子選手)



天道貞一大阪府DS連盟会長と
コーチの久保田弓椰・徳野夏海組

2019年度公益社団法人日本ダンススポーツ連盟 正会員選挙の実施に関する告示

2019年度公益社団法人日本ダンススポーツ連盟正会員選挙を実施しますので、正会員選出に関する規則第2条第3項及び第3条第3項に基づき、以下のとおり告示します。

(告示事項)

1、選挙する正会員の定数は、規則第5条第4項により下表のとおりとなります。

北海道	2	千葉	3	滋賀	2	愛媛	2
青森	1	東京	7	京都	2	高知	1
岩手	2	神奈川	5	大阪	2	山口	2
宮城	3	新潟	2	兵庫	2	福岡	2
秋田	1	長野	2	奈良	2	佐賀	1
山形	2	富山	2	和歌山	2	長崎	1
福島	2	石川	1	鳥取	1	熊本	2
茨城	3	福井	1	島根	1	大分	2
栃木	2	静岡	3	岡山	2	宮崎	1
群馬	2	愛知	2	広島	2	鹿児島	2
山梨	2	三重	2	香川	1	沖縄	2
埼玉	2	岐阜	1	徳島	2	事務局	2
合計 96							

2、任期は、2019年6月1日から2021年5月31日までです。

3、正会員への立候補

1) 2019年1月1日現在で会員登録されている正会員、一般会員（ただし、当連盟役員は除く）は、正会員に立候補する権利を有するとともに、正会員を選挙する権利を有します。

2) 正会員には、当該加盟団体の会員を代表して総会に出席していただきますが、これに要する費用について、JDSFからの支給はありません。

3) 立候補する場合は、様式第2号により、2019年3月1日（金）から2019年3月7日（木）17時（必着）までに、郵送、又は、FAXで届け出てください。様式は、当連盟ホームページからダウンロードするか、当連盟事務局（電話03-6457-1850）にご請求ください。

届出先：〒135-0063

東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階
公益社団法人日本ダンススポーツ連盟
選挙管理委員会

FAX：03-6457-1857

なお、立候補を辞退する場合は、2019年3月31日までに届け出てください（様式自由）。

4) 立候補者の掲示

立候補者名は、随時、当連盟ホームページに掲載します。

4、投票

立候補者数が定数を上回った場合は、投票を行います。投票方法は加盟団体により異なりますので、投票を行うことになった場合に、本部または加盟団体選挙管理委員会が当連盟ホームページ等により投票・開票日を告示します。

ワールド マスターズ ゲームズ2021 関西にて開催!!



記念すべき第10回ワールドマスターズゲームズが2021年5月14日から5月30日の17日間、日本の歴史・文化が集結する関西を舞台に開催されます。ダンススポーツ競技も和歌山市の武道・体育センター和歌山ビッグウエーブにおいて開催が決定しています。国際マスターズゲームズ協会（IMGA）が主催、IOC（国際オリンピック委員会）が後援する、後世に残る世界最高峰の生涯スポーツの祭典となり、関西からわが国のスポーツ文化が世界に発信されます。

「ワールドマスターズゲームズ」は30歳以上（原則）の方なら誰でも参加でき、生涯スポーツを推進しシニア世代のアスリートに夢と希望をもたらす、一般参加型国際大会です。



2018年度ランキング競技結果・ 2019年度JDSF競技会について

例年のように、2018年度のJDSFランキング競技会の結果、2019年度 JDSF競技会予定及び2019年版競技関連規程集の主な改訂点についてご報告いたします。

2018年の年間競技会開催回数はJDSF公認・承認競技会あわせて298回（昨年289回）、JDSF主催は203回（公認196回、承認6回、普及0回、中止1回）プロ団体95回（PD：16回、JPDSA：58回、NJDC：21回）となりました。



競技本部長
山口 剛

2019年度のJDSF公認競技会予定表は12月18日に各ブロック、都道府県連盟に通知いたしました。

この予定表に掲載されている競技会はJDSF公認競技会の予備（仮）公認を得ていますので、開催日3ヶ月前までに、正式な申請を行い、その内容に競技規則・規程等の違反がなく、競技会開催に問題がなければ正式にJDSF公認競技会となります。

1) 2018年度JDSFランキング競技の結果(別表) 2) 2019年度JDSFメイン競技会及びJDSF主催 競技会予定。

JDSFメイン競技

- 3/10 東京オープンダンススポーツ選手権 [駒沢体育館]
- 5/19 ダンススポーツグランプリin大阪 [不死王閣] La
- 5/26 ダンススポーツグランプリin熊本
[大津町運動公園体育館] St
- 7/21 ダンススポーツグランプリin静岡 [浜松アリーナ] St
- 9/8 ダンススポーツグランプリin仙台 [青葉体育館] St
- 10/6 ダンススポーツグランプリin北海道 [北海きたえーる] La
- 11/10 三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権大会 [駒沢体育館]
- 6/16 アジアンワールドダンススポーツフェスティバル (仮称)
[大阪]
- 9/1 JDSF PD Japan Dance Trophy [福岡:宗像ユリックス]

- 7/6・7 アジアンダンススポーツゲームズ
[群馬:高崎アリーナ]
全日本ユース10ダンス選手権併催
- 7/28 第14回オールジャパン・ジュニアダンススポーツカップ
[BumB 東京スポーツ文化館]
- 11/17 第27回都道府県対抗全国ダンススポーツ大会
[茨城:水戸市東町運動公園体育館]
- 11/10 第32回ねりんピック
[和歌山:那智勝浦町体育文化会館]

※2019年国際派遣選考競技会

2019年度国際派遣選考競技会は部門別に下記の一覧表のとおりとなりました。

代表派遣を目指す選手の皆様は良くご覧になり、予定を立て奮ってご参加ください。

なお、平成24年からジュニアSt、Laの選考は、グランプリ大阪、オールジャパンジュニアDSカップ、三笠宮杯全日本選手権ジュニアの3大会のポイントにより選抜されることとなっています。

また、平成27年よりユースSt、La代表選考は、グランプリin静岡の全日本選手権ユース、オールジャパンジュニアダンススポーツカップ及びグランプリin仙台的ユース区分の3大会のポイントにより選考とすることになりました。

その他JDSF主催競技会等

- 1/13 全日本シニア10ダンス選手権
[京都:伏見港公園体育館]
- 6/2 全日本10ダンス選手権 [愛知:津島市体育館]

2019年	熊本 (大津町運動公園総合体育館) 5月26日	大阪 (不死王閣) 5月19日	静岡 (浜松アリーナ) 7月21日	オールジャパン ジュニア (Bum B 東京 スポーツ文化館) 7月28日	仙台 (青葉体育館) 9月8日	北海道 (北海きたえーる) 10月6日	三笠宮杯 (駒沢体育館) 11月10日
グランプリスタンダード	○		○		○		○
グランプリラテン		○				○	○
シニアスタンダード		○				○	
シニアラテン	○				○		
ユーススタンダード			○	○	○		
ユースラテン			○	○	○		
ジュニアIIスタンダード		○		○			○
ジュニアIIラテン		○		○			○
ジュニアII10ダンス			○				

注. 2019年度世界10ダンス選手権への派遣選考会は、2019年6月2日津島市体育館で開催。
世界シニア10ダンス選手権への派遣選考会は、2019年1月13日京都伏見港公園体育館で開催。
世界ユース選手権/ジュニア選手権(スタンダード・ラテン)への派遣選考は、代表派遣をする世界選手権開催日3ヶ月前を起点とした3大会のポイント結果により選考。
2020年度世界シニアIIの派遣選考会は、2019年3月9日(土)ダンススポーツフェスティバルin東京(駒沢体育館)で開催。
世界シニアIIIの派遣選考会は、2019年11月17日(日)全国都道府県対抗戦(茨城:水戸市東町運動公園体育館)で開催。
世界シニアIVの派遣選考会は、2019年6月30日(日)西部ブロック選手権(大阪:不死王閣)で開催。

以上のことをしっかりとご確認の上で、JDSF競技会に奮って参加して頂き、JDSF競技会がなお一層活性化されますことを願っております。

3) 競技関連規程集について

本年も競技会主催者、競技役員用の競技関連規程全てを掲載した「2019年版JDSF競技関連規程集」を発行致しました。チェアパーソン始め競技会を運営される方はよくお読みになり、競技会開催時には是非お手元において、お役立て下さい。

今まで登録選手の皆様に配布されていた「選手用競技関連規程集」は2016年より廃止となりました。

2019年 競技関連規程集の主な改訂ポイントと解説

- (P1～7) 公益社団法人日本ダンススポーツ連盟 競技規則 (JDSF 競技規則)
「全日本ダンススポーツ統一級公認審議委員会」(統一級委員会)が解消され、これに係る条文の8ヶ所を削除し、文章のつなぎ等を訂正した。
- (P2) 公認申請時期: 早すぎる申請でのトラブルが目立つので「4

- か月前の月の20日から」とし、申込開始期日を明確にした。
(ただし、行政機関などとの関係で、早めの申請承認は可)
- (P3) エントリー組数：最低5組を「出場組数に合わせ3組とした」
ただし、決勝戦で2組以下の場合是不成立。
- (P6) カップル登録：第40条の3、内規の第6条の内容「登録以外の組相手も可」も含め、条文にまとめた。
リフトの禁止：第48の2に、危険性が高いので、「リフト禁止の条文を追加」した。
- (P7) 「本規則で使われる文言の解釈と重要表現」の「出場組数」：当日の選手受付を終了し、「1次予選にカップルでフロアに立った組数」とする。(知人が受け付けたり、組相手が未着で間に合わないことがある)
- (P9) (別表2-1)の注1：SIA級戦1種目減(V)(J)の説明不足を明確にした。
- (P10) 昇降級規程：第8条「降級特別措置上：申請書、申請料、組相手も可、の追加説明を加えた。
- (P12) (別表2-2) シニア系競技のB級からC級への降級基準：最終予選に出場を1次予選通過に変更した。
- (P13) 第5条(無断欠場)：競技開始前に正式に申し出のない無断欠場者のHPの出場記録の訂正はしない。
第6条(未登録出場)：「未登録者や移籍などで登録未了者の出場記録と入賞資格は抹消」を追記した。
- (P15) 昇級基準に関する内規：降級基準も含めた内容とし、「1次予選通過」「最終予選進出」の説明も加えた。
- (P16) ガイドライン：事故対応に備え、救護係の設置をする。(HP掲載の「競技会での救急事故の対応」を参照)
悪天候や交通機関停止で競技会中止の連絡対策としてシラバスに緊急連絡URL等の手立てを考慮する。
- (P17) 罰則規程：第2条の2と第3条の2に新規の項目を立ち上げた「迷惑行為の対応と罰則処分」
：第4条～第6条の文章内容を変更した「チェアパーソンの裁定、処分、報告の義務」
- (P19) 服装規程：平服女子のアンダーウェアの文章を訂正した。「肌色」を「素肌に見える色」に変更した。
- (P21) :ユース、アダルト、シニアの男性の服装、判り易くするためにイラストを追加した。
- (P48) 公認審判員規程：第4条の2の3)を追記した。第4条の2の5)とその下の行、不要につき削除した。
- (P53～57) チェアパーソン規程、及びスキルティニア規程：一部文言の訂正と不要な文を削除した。
- (P73) シラバス 注意欄：「健康管理に充分留意し応急措置以上は自己責任」とし、自己管理を促した。
救命救急事故が増える傾向がみられ、健康管理と自己責任の意識付けを明確にした。
- その他 ・下線は改訂重要部分のみとし、その他、文言や数字等の加除訂正、配列の訂正、変更などをした。

2018年度JDSFランキング競技の順位結果

PD全日本ポイントランキング

●スタンダード

1位	オレクシグザー・太田史圭子	東京都
2位	石原 正幸・石原 蘭羅	東京都
3位	久保田弓椰・徳野 夏海	TEAM YUMIYA 北海道
4位	山崎 圭太・石本美奈子	エムズダンスアカデミー
5位	秋谷 孝宏・田原 美穂	エムズダンスアカデミー/高田馬場ナカザワダンススタジオ
6位	高橋 一昌・高橋由紀子	幸手K&Yダンスクラブ
7位	喜多田芳起・細田 千代	ザ・ゴールドンパレス大阪
8位	壺内 康文・壺内 美和	STAR ROAD DANCE CENTER
9位	見元 克至・北畑 香織	アサノダンススクール/タキガワダンススクール
10位	川田 悟・長島あすみ	西所沢駅前アサノダンススクール
11位	西川 和孝・大木 美季	ピギンダンス教室
12位	黒澤 秀成・三橋 綾子	ダンスキューブミヤオカ

●ラテン

1位	久保田弓椰・徳野 夏海	TEAM YUMIYA 北海道
2位	西村 康宏・鳥尾 綾香	航空公園舞ダンススクール
3位	新屋 秀和・滝川 絵理	ダンススタジオデポット/阪田ダンススタジオ
4位	西 恭平・西川 真由	シノダスポーツダンスクラブ/ StudioHeartBeat
5位	岸田 肇・岡田 祐子	岸田ダンスアカデミー
6位	高島 大知・田村奈緒子	TAICHI DANCE LUCE
7位	魚谷 征義・宮島 愛	Studio La mer
8位	上原 伸之・家入 由佳	DoAStudio/桜井ダンスアカデミー
9位	岩本 喜治・合田 麻里	ダンススタジオデポット
10位	早崎 正剛・早崎 裕美	ダンス夢ファクトリー
11位	高辻 博希・岡田 優美	関西JS協会
12位	兄後 幸大・兄後 智子	Any's Dancing Club

全日本ダンススポーツランキング

●スタンダード

1位	小嶋みなと・盛田めぐみ	神奈川
2位	大西 大晶・大西 咲菜	富山
3位	菅原 一樹・Laura Collavizza	東京
4位	五月女光政・五月女観佳	ブルボンDST/栃木
4位	山田 恭平・秋山 彩織	東京
6位	棚橋 健・盛田 舞香	東京
7位	石垣 和宏・三喜穂菜美	ブルボンDST/千葉
8位	日比野 湧・和野 歩未	ブルボンDST/千葉
8位	佐藤 祐馬・久保田理沙	東京
10位	熊谷 光晃・粕尾明日香	東京

●ラテン

1位	藤井 創太・吉川 あみ	千葉
2位	菅原 一樹・Laura Collavizza	東京
2位	八谷 和樹・皆川 円	千葉
4位	大西 大晶・大西 咲菜	富山
5位	海老原拳人・タカギルナ	千葉
5位	五月女光政・五月女観佳	ブルボンDST/栃木
7位	鈴木 奨太・鈴木 千尋	千葉
8位	石垣 和宏・三喜穂菜美	ブルボンDST/千葉
8位	大久保稔也・吉村 春香	東京
10位	押川 慧悟・和田 知世	神奈川
10位	海老原竜太・遊佐美優子	千葉
10位	名越 慎悟・名越 明子	神奈川

全日本選手権10ダンス

1位	菅原 一樹・Laura Collavizza	東京
2位	八谷 和樹・皆川 円	千葉
3位	金井 大輝・甘利このみ	群馬
4位	海老原竜太・遊佐美優子	千葉
5位	安部 邦斗・安部 美咲	千葉
6位	早坂優太郎・大久保京香	東京

全日本選手権シニア（世界戦第1代表選考）

●スタンダード（グランプリ in 大分）

1位	村川 明・村川 絢子	神奈川
2位	野口雄一郎・奥野 亮子	東京
3位	森川 豊則・鈴木 悠夏	大阪
4位	高杉 耕一・高杉 綾子	東京
5位	大東 哲平・大東 くに	神奈川
6位	名越 慎悟・名越 明子	神奈川

●ラテン（グランプリ in 大阪）

1位	岸 英明・田中 志保	東京
2位	名越 慎悟・名越 明子	神奈川
3位	宗形 隆史・宗形 葉子	埼玉
4位	白井 泰昭・石井かおり	神奈川
5位	永井 孝明・永井 優子	茨城
6位	吉田 宏史・大西 那奈	東京

全日本選手権シニア（世界戦第2代表選考）

●スタンダード（グランプリ in 仙台）

1位	高杉 耕一・高杉 綾子	東京
2位	野口雄一郎・奥野 亮子	東京
3位	森川 豊則・鈴木 悠夏	大阪
4位	渡部 正光・渡部 典子	茨城
5位	名越 慎悟・名越 明子	神奈川
6位	小高 修平・井上 魅空	東京

●ラテン（グランプリ in 北海道）

1位	山本 哲郎・工藤由美子	東京
2位	宗形 隆史・宗形 葉子	埼玉
3位	河野弦二郎・河野 サヨ	京都
4位	仁井田長剛・仁井田真紀	茨城
5位	白井 泰昭・石井かおり	神奈川
6位	永井 孝明・永井 優子	茨城

ユースランキング

●スタンダード

1位	五月女光政・五月女観佳	フルボン DST/栃木
2位	石垣 和宏・三喜穂菜美	フルボン DST/千葉
3位	日比野 湧・和野 歩未	フルボン DST/千葉
4位	太田 歩生・松本 京佳	北海道 ・大阪
5位	川本 竜・川本 弥生	奈良
6位	松浦 龍騎・松浦優莉華	宮城

●ラテン

1位	五月女光政・五月女観佳	フルボン DST/栃木
2位	石垣 和宏・三喜穂菜美	フルボン DST/千葉
3位	日比野 湧・和野 歩未	フルボン DST/千葉
4位	長谷川 悠・安達あん珠	富山
5位	太田 歩生・松本 京佳	北海道 ・大阪
6位	松浦 龍騎・松浦優莉華	宮城
6位	安部 邦斗・安部 美咲	千葉

全日本選手権ユース10ダンス

1位	五月女光政・五月女観佳	フルボン DST/栃木
2位	石垣 和宏・中村 安里	フルボン DST/千葉
3位	日比野 湧・和野 歩未	フルボン DST/千葉
4位	Daniel Lin・Ivy Chuang	Chinese Taipei
5位	安部 邦斗・安部 美咲	千葉
6位	太田 歩生・松本 京佳	北海道 ・大阪

全日本選手権ジュニア10ダンス(グランプリ in 静岡)

1位	山本 壮真・三喜真梨菜	愛知
2位	ホワイオン謙心・ホワイオン夏奈	神奈川
3位	高橋 海・和田 享華	千葉
4位	小島 獅桐・鈴木 未来	群馬
5位	岡田 悠希・小川 友菜	神奈川
6位	濱田 琉成・鈴木 桜咲	栃木

ジュニアランキング

●スタンダード

1位	山本 壮真・三喜真梨菜	愛知
2位	木下 将希・片岡まりの	千葉
3位	ホワイオン謙心・ホワイオン夏奈	神奈川
4位	上岡 裕人・降旗 沙季	千葉
5位	高橋 海・和田 享華	千葉
5位	吉田 周平・馬谷真利亜	神奈川

●ラテン

1位	高橋 海・和田 享華	千葉
2位	山本 壮真・三喜真梨菜	愛知
3位	ホワイオン謙心・ホワイオン夏奈	神奈川
4位	小島 獅桐・鈴木 未来	群馬
5位	今西 竜矢・今西 心菜	東京
5位	木下 将希・片岡まりの	千葉

全日本選手権ジュブナイル(三笠宮杯)

●スタンダード

1位	津田琥汰朗・多和今日子	大阪
2位	齋藤 隼一・小西 乙愛	千葉
3位	吉岡 栄太・竹内 杏奈	千葉
4位	濱田 琉成・鈴木 帆南	栃木
5位	阿部 優翔・倉野 友花	東京
6位	足立 拓海・木下 真代	千葉
7位	齋藤清乃佑・勝木 里桜	東京

●ラテン

1位	津田琥汰朗・多和今日子	大阪
2位	吉岡 栄太・竹内 杏奈	千葉
3位	齋藤 隼一・小西 乙愛	千葉
4位	濱田 琉成・鈴木 帆南	栃木
5位	齋藤清乃佑・寺本 彩央	東京
6位	畠山 藍匠・畠山 桂繪	千葉

ブロックランキング

北海道ブロック

●スタンダード

1位	稲垣 浩・伊藤千恵美	北海道
1位	小林 進・小林 麻理	北海道
3位	多田 浩二・多田 華	北海道
4位	大木 大樹・大木 風香	北海道
4位	太田 歩生・松本 京佳	北海道
6位	志比 悠熙・佐藤菜々子	北海道

●ラテン

1位	阿部 涼太・佐野未友果	北海道
2位	高階 凌・呷 桜	北海道
3位	多田 浩二・多田 華	北海道
4位	福永 茂樹・工藤恵美子	北海道
5位	太田 歩生・松本 京佳	北海道
5位	大木 大樹・大木 風香	北海道

東北ブロック

●スタンダード

1位	及川 久隆・及川 加代	岩手
2位	大内 彰・大内 まい	福島
3位	山下 和男・山下千佳子	岩手
4位	佐藤 功・佐藤 明美	宮城
4位	千葉 英明・千葉 順子	岩手
6位	菅野 忠司・安藤登美子	山形

●ラテン

1位	佐藤 誠・佐藤美喜子	岩手
2位	大内 彰・大内 まい	福島
3位	熊谷 義昭・熊谷 正子	福島
3位	古川 勲・鈴木 陽子	福島
5位	笹原 清彦・笹原富美子	山形
5位	青柳 清・青柳かよ子	岩手

関東甲信越ブロック

●スタンダード

1位	石垣 和宏・三喜穂菜美	フルボン DST/千葉
1位	棚橋 健・盛田 舞香	東京
1位	佐藤 祐馬・久保田理沙	東京
4位	熊谷 光晃・粕尾明日香	東京
4位	岩崎 将之・富岡 采花	神奈川
6位	林 宗親・石坂 幸穂	東京

●ラテン

1位	石垣 和宏・三喜穂菜美	フルボン DST/千葉
1位	金井 大輝・甘利このみ	群馬
3位	柴木 毅門・井上 乃天	神奈川
4位	山本 哲郎・工藤由美子	東京
5位	海老原竜太・遊佐美優子	千葉県
5位	福馬 智生・泉名 咲璃	東京

中部ブロック

●スタンダード

1位	大西 大晶・大西 咲菜	富山
2位	小林 潤一・小林 麻衣	富山
3位	高木 克之・日下貴志子	愛知
4位	鈴木 宏之・岡田 敦子	愛知
5位	長谷川 悠・安達あん珠	富山
6位	滝川 貴之・滝川 綾乃	愛知
6位	村松 樹・大杉 瑠里	静岡

●ラテン

1位	大西 大晶・大西 咲菜	富山
2位	長谷川 悠・安達あん珠	富山
2位	滝川 貴之・滝川 綾乃	愛知
4位	安藤 貴洋・安藤 恵里	愛知
4位	櫻庭 幸哉・神谷さくら	愛知
4位	村松 樹・大杉 瑠里	静岡

西部ブロック

●スタンダード

1位	谷口 主嘉・谷口小夜子	京都
2位	森川 豊則・鈴木 悠夏	大阪
3位	松林 勝・藤 めぐみ	滋賀
4位	青井 昭博・田中喜美子	滋賀
5位	竹内 厚人・竹内 妙子	大阪
6位	加藤 修久・加藤 裕子	大阪

●ラテン

1位	佐藤 寿一・佐藤美奈子	岡山
2位	津田琥汰朗・津田マリア	大阪
3位	大矢部廣昭・中川 弘美	大阪
4位	徳田 俊介・藤田由里佳	大阪
5位	酒井 剛・酒井 直子	大阪
6位	伊加井義弘・伊加井真弓	兵庫

九州ブロック

●スタンダード

1位	津崎 伸宏・津崎光佐子	熊本
2位	山口 修平・山口 杏奈	福岡
3位	浦田 瑠平・水野 菜穂	佐賀
3位	甲斐他美夫・甲斐 幸子	福岡
5位	徳野 一也・下河邊衣津子	福岡
6位	山下 章玄・山下 里美	熊本

●ラテン

1位	宇台孝之助・山口 未来	大分
2位	神武 晴・池田 結咲	福岡
3位	藤重 哲哉・藤重 恵子	福岡
4位	荒木 峻平・上田 桃加	福岡
4位	白木 千寛・白木 有希	福岡
6位	西脇 達也・玉利 伸子	福岡
6位	野田 陸・佐藤紀美子	熊本

第3回 ユースオリンピック競技大会 (2018/ブエノスアイレス)報告

監督 石川 勝之
(JDSFブレイクダンス部長)



競技報告

1：選手選考 (IF・NF) の経過と本大会への強化策

IF; International Sports Federations=国際オリンピック委員会 (IOC) 公認の競技別スポーツの国際組織の総称。各 IFは世界選手権などを開催するほか、オリンピックでも競技運営についてはみずからの責任で実施する。この大会のIFはWDSF (世界ダンススポーツ連盟)。

NF; NSF (National Sports Federation)=国際オリンピック委員会 (IOC) 公認の国際競技連盟 (IF) に加盟している国内の競技組織。我が国のダンススポーツ-ブレイキン競技のIFはJDSF (公益社団法人日本ダンススポーツ連盟)。

ブレイキン (ブレイクダンス) が新競技種目として第3回ユースオリンピック競技大会 (2018 /ブエノスアイレス) に参加が決定。ブレイキンを「スポーツ」として扱われるのは初めてのことであったので、各国のNFの中で急いでブレイクダンス部を立ち上げ、連携することから始まった。

今回のブエノスアイレスユースオリンピックに出場するための選考方式は、ビデオ審査 (各国最大男子5名、女子5名まで選出) ⇒大陸別予選アジア・オセアニア大会 (各国男子3名、女子2名まで選出) ⇒WDSF世界ユースブレイキン選手権 (各国男女1名ずつのみ、上位9か国に出場権が与えられる) ⇒ユースオリンピック (アルゼンチンを含む招待枠3か国を加え、合計12か国出場) という流れで行なわれた。

NFとしては、B-boy、B-girl (ブレイキンを踊っている人の総称) にはスポーツマンの知識が全くなく、ビデオ選考から選ばれた男女各5名ずつ及び新しい役員たちを集めて定期的にドーピング、オリンピック、アスリートとは、等について基本的な講義を何度か主催した。



競技会場の様子

最終選考大会に繋がるステージ1の選考ルールは「ビデオ審査」という今までに例のない選考方法であった。今までブレイキンの世界では「スポーツ」という公式な大会が一つもなく、公平に選出する大会を各国で開催することが困難だということからIFはビデオ審査を選び、これによって世界中誰でも参加出来ることになった。

日本のブレイキンのレベルはとて高く、ビデオ審査では男子5名、女子5名が選出され、大陸別予選アジア・オセアニア大会 (2018 /台北) にて、男子では、優勝 半井重之、3位 金森翔也、4位 川元陸、7位 堀泰致、女子では優勝 河合来夢、3位 川崎麗、4位 魚地菜緒、5位 田中萌、6位 伊吹梓、男女とも10位以内に日本人が約半分入る結果となった。

続いて、最終選考であったWDSF世界ユースブレイキン選手権 (2018/5/20川崎) でも男女ともに優勝という結果を出し、レベルの差を世界に見せつけユースオリンピック出場権を獲得した。

半井選手、河合選手はブエノスアイレスユースオリンピック出場権を獲得後3ヶ月にわたり、個人、チームにおいてそれぞれ練習を積み、ワンランク上の試合に出場するなどしてブエノスアイレスユースオリンピック直前までフィジカルとメンタルの強化と調整を図った。

2：現地でのコンディショニング

選手村といった今までに経験したことがない状況で最初は戸惑っていたようだが、日が経つにつれて友達もできたようで慣れていった。選手村から練習場所もかなり近く時間を有効に使うことができた。しかし、そこを一日中利用できたのはなぜか初日のみ。練習場所が思うように使えないことから選手村の中でスペースを見つけて練習していた。その中でも選手たちは工夫をし、踊れない時はトレーニングルームなどへ行き身体作り等、

冷静に対応した。

心配していた食事については、選手村のレストランには思っていたより様々な食事があった。選手たちにはバランスの良い食事を心がけさせ、水についてもミネラルウォーターを飲むように伝えた。そのお陰もありその点ではお腹を壊すこともなく栄養のとれた食事ができたようだ。

試合の方も入村してから5日目ということで、懸念していた時差ほけも調整ができた。長くもなく短くもないこの期間で、試合に向けての身体の調整は十分にできた。全試合終了後も約1週間の現地滞在があり、練習不足や体調管理には注意しながら生活を送った。計画的に練習をこなして、体調管理に努めたことで、期間中の体調は常に良好を保つことができた。

3：各種目の試合経過と戦評 [女子]

河合選手はブエノスアイレスユースオリンピックの1ヶ月前に練習で肩から落ちてしまい、右肩がテーピングで固めないと上げることができないレベルの怪我を負っていた。試合前は右肩を使わないようなトレーニングを心がけ練習をしていたが、たまに無理をして少し使っていた時もあった。その都度テーピングを貼り直し、思い切って踊れる状態ではなかった。なるべく本番までは右腕を使わぬように指示をした。本番もこのテーピングを一試合ごとに貼り直す作業が必要だった。そんな中、本人は焦ることもなく至って冷静に状況を判断し試合に挑んでいた。予選から決勝まで心配することがあまりなかった。全力で技ができない中、自分が武器としているステップのグループやキャラクターを上手く活かし表現し、右肩にあまり負担をかけないようにし、技で勝ち取るのではなく雰囲気や風格で勝ち上がっていったようだった。決勝では右肩の痛みを感じているにも関わらず大技に挑んだ。それが決め手の一つとなり圧巻の演技で金メダルを獲得することができた。



中央：金メダル獲得の河合来夢

[男子]

半井選手は、最終予選大会前から、金メダリストの候補だった。WDSF世界ユースブレイキン選手権での演技は完璧だった。そのままやれば金メダルは間違いないと思っていたが、試合までの期間は技術ではなく、身体のコンディションと特にメンタルを心がけることが大切だと指導した。プレッシャーからなのか若干緊張しているようにも感じていたからだ。試合当日は何も問題なく試合に勝ち上がっていく。あっという間に準決勝までいった。しかし準決勝の相手はWDSF世界ユースブレイキン選手権決勝で優勝を争ったロシアのBUMBLEBEE選手。半井選手のライバルであり一番マークしていた相手だった。やはりプレッシャーを感じていたのか、この準決勝の半井選手の動きはやはり少し固いように感じた。気負いすぎているように思えた。技術では決して負けていなかったが、試合の運び方がよくない。技の見せ方に少しムラがあるなど、よく緊張している選手が見せる特徴ある感じだった。結果は準決勝で敗退してしまい、3位で銅メダルを獲得した。技術で負けたようには思えなかったので悔しさが残るが、彼はもうすでに次のオリンピックを見据えていた。この経験を次に活かしてこれからもさらに成長を感じさせてくれるだろう。まだまだ世界で活躍する期待の選手だ。



右：銅メダル獲得の半井重之

【ミックス】

河合選手はベトナムのB4選手とタッグを組んだ。1回戦からどのチームが勝ってもおかしくないような試合だったが、河合選手とB4選手のルーティン（ペアで踊る）の波長が合い、僅差でその特技を生かした方法で勝ち上がっていった。気づけば決勝まで進み、そのまま優勝することができた。河合選手2個目の金メダルだ。準決勝、決勝では、B4選手はかなりメンタルが弱い選手で、いつもネガティブな言葉を発するのに対し、ポジティブな言葉をかけ引っ張る河合選手。河合選手のリードで優勝に導いたと言っても過言ではない。

半井選手は、ラトビアのANASTATIA選手と組んで出場。レベルの高いルーティンも何個か用意したのだが、ANASTATIA選手の技術のレベルが半井選手に追いつくことができず、チーム力を失っているように思えた。結果、準々決勝で河合選手とB4選手ペアに負けて敗退してしまった。自分よりも技術が劣る仲間に対し、こういった場面でのように対応していけばいいのかを学べた貴重な経験になったのではないかなと思う。

4：競技の総評と反省

女子に関しては、河合選手が本番1か月前に練習にて肩を負傷してしまい、本番直前まで思うように練習ができなかった。練習を個人で行っていた時の出来事ではあったが、監督として、前もって練習に対して助言をしているか、付き添って練習に参加していればこのようなことはなかったと反省している。しかし、練習を存分にできていない状態でも大会での河合選手の演技は素晴らしかった。完璧な演技はできなかったものの、雰囲気やキャラクター、ムーブの構成、ミュージカルリティ等のカテゴリーで補い、ブランクを感じさせることなく全てストレートで相手を下していった。見事な試合であった。

男子に関しては、半井選手は予選までは完璧な演技をしていた。見事に予選を1位通過しトーナメントへ進出したが、準決勝では若干の緊張があったのか少し堅く、思うような演技ができなかったように思えた。結果、完璧な演技を見せた予選3位通過のロシアのBUMBLEBEE選手に負けてしまった。半井選手に関しては直前にフィジカルの面より内面的な部分のケアをしていれば優勝していたのではないかなとも思っている。指導者としてコミュニティの現場（環境も含め）を存分に作ってあげられなかったことを反省している。ただ、この経験が特にメンタル部分に関してどのように対応していけばいいのかを学べる大きなきっかけになったと思う。

ミックスについては、河合選手に関しては最下位の男子と組み、女子ながら男子を率いている様子がたくましく思えた。相方のベトナムの選手とも息のあった展開をみせ、そのまま見事優勝をもぎ取った。

半井選手に関しては、相方のラトビアのANASTATIA選手を率いて試合に挑んだが、半井選手とレベルの差がありすぎ、チーム力をみせきれずに準々決勝で敗退してしまった。しかしレベルが劣っている選手を引っ張る半井選手は周りからも好印象だった。

5：文化・教育プログラム

試合前は練習を中心に行い、試合後は多数の取材のためIOCが主催した文化・教育プログラムには参加ができなかった。しかし、試合が終わった残りの滞在期間の合間に2日間、地元アルゼンチンのダンサー達がユースオリンピックに参加しているダンサーに対して交流会を開いてくれた。アルゼンチン中からダンサーが集まり、大会形式の素晴らしい国際交流をすることができた。選手村でのプログラムには参加できなかったが、ここで国際交流ができたことは両選手にとってこれからの人生の財産になったと思う。競技を通してさらにより多く異なる文化出身の人間とコミュ

ニケーションを交わすことができ、日本ではあまり学べない道徳を学ぶことができた。

■選手村の生活

選手村内は、外観、内装などとても綺麗で、一つの街のようであった。しかし、エレベーターが停まってしまう、中で1時間待たされたり、トイレが詰まったりと大変だった。地元ダンサーとの交流会にて、食事に関しては工夫して調理していたが、毎日ほぼ同じメニューだった。その中でも栄養に気を遣ってバランスよく食事をしていった。

私たちの競技の練習時間が少なかったため、身体の調整に関してもっと練習時間を良い環境で行いたかったため、選手村内のストリート、事務所などで練習を毎日のように行っていた。「ストリートや事務所は踊るところではない」と指摘を受けることもあったが、練習時間が短かったことを考えると仕方ないことだった。そして選手に対しての身体のケアをする場所もなく、選手の部屋で寝る前にマッサージを行った。しかしこれには問題もあった。私たちの世界では男女、国籍、年上も年下も関係なく同じ部屋に滞在するという常識が通用せず、一緒だった部屋の選手に迷惑をかけたこともあった。練習場所やマッサージの場所など、ダンススポーツとして次回の大会では配慮して頂きたい点だと思った。

しかし、他の競技の選手と同じ部屋になるということで、新たな友達を作ることができ、特に同じ部屋の選手がメダルを獲得すると、良い影響を受け気合が入っていたようだった。さらに他の選手の試合を観戦しに行ったが、これもまた良い刺激を受けているようだった。

日本人選手よりも他の国のダンサーたちと交流している時間の方が長いように感じた。プレイキンは初めてスポーツの世界に入った競技ということもあり、戸惑いを隠せなかった。他の国の選手も同じようなマインドになっており、自然と同じ競技の出場者として集まっていった。その点、どの競技の選手よりも、国籍交流という部分では私たちが一番経験していたのではないかなと思う。

私たち監督陣においても、他の競技の監督と同部屋での生活だったため、それぞれの競技の結果や悩みや、シーンに対する問題点などいろんな話をすることができ、これからのダンススポーツをどのように導いていけるのかなど、かなりの刺激を受けた。監督陣の交流の機会としても今までにない大変貴重な時間を過ごすことができた。

私たちにとって初めてスポーツという世界を経験して、私たちのメリット、デメリットがみえ、今後どのように行っていくべきなのかを深く考えさせられた大会となった。

このユースオリンピックに参加させて頂いて、今後もし2024年のパリからオリンピック競技に正式に決まることになれば必ずオリンピックに出場したい、と気持ちが掻き立てられた。この経験を行動に移し、連盟と個人選手と共にさらにダンススポーツを発展させていきたいと思った。渡航前の準備段階からお世話になったJOC、JTBの方々、メディア、諸関係各位、応援してくれた皆様には心から感謝したい。ありがとうございました。



地元のダンサーとの交流会にて



同じ競技の他国の選手たちと



左端：筆者、他の競技の監督たちと

スポーツ庁 鈴木大地長官を表敬訪問

去る11月16日、ユースオリンピックのダンススポーツ競技(ブレیکن)で金メダリストの河合来夢(Ram)選手と石川勝之(Katsul)監督がJDSF役員とともに鈴木長官を表敬訪問し、ねぎらいと励ましのお言葉を頂きました。



鈴木長官からの質問に対して、海外選手との友好のためにRam選手が英語でのコミュニケーションに努力したことや練習状況などについてご説明。Katsul監督からは、Ram選手が怪我をしていた上で金メダル2個を獲得した凄さやその背景説明などがあり、Ram選手がこのオリンピックにかけた意気込みなどが語られました。

鈴木長官より「このダンスが決して遊びの延長ではなく、激しいし、相当な体力を使う。クリエイティビティも必要だし、総合芸術的な難しい競技であると感じられた」という嬉しいコメントがありました。

最後に、「新しいタイプのスポーツとして、スポーツ界に新風を吹き込んで、楽しさ、喜びなどスポーツ界に良い波として伝えていってもらいたい。これからも、(Ram選手が)中学生や高校生など、若い人たちが憧れるような存在で、競技の方も追及して欲しい!」という励ましのお言葉を頂きました。



右から石川勝之(Katsul)監督、河合来夢(Ram)選手、鈴木大地長官、山田淳専務理事、神宮周二広報部顧問

河合来夢(Ram)選手が川崎市スポーツ特別賞を受賞

去る11月6日、川崎市役所にて、ブエノスアイレスで開催された第3回ユースオリンピックのダンススポーツ競技(ブレیکن)で金メダル2個を獲得した河合来夢(Ram)選手(神奈川県立百合丘高校2年17歳)に、福田紀彦市長より川崎市スポーツ特別賞が贈られました。川崎でブレیکن普及活動を行なっている石川勝之(Katsul)監督も出席、お祝いと労いの言葉をいただきました。

福田市長は「金メダル2個の快挙おめでとう。川崎市はブレیکنの聖地、若者文化の街。世界大会や国内大会で好成績を挙げた個人や団体に、市スポーツ特別賞を贈っており、河合さんは最年少での受賞です。Ramさんは「学校でもみんなが励ましてくれた。嬉しいです。1ヵ月前に肩を怪我しましたが、それがバレるとまずいと思い、ひた隠しにしていました。今はホッとしています!」と胸の内を話しました。Katsul監督は「Ramちゃんとはにかくみんなからマークされていました。肩をゴリゴリにテーピング、100%の力ではなかったけれど、最後は大技を決めてくれました。MixではベトナムのB-Boyをリードし金メダルを獲得、その精神力も半端ではありません!」と市長に報告しました。



WDSF ルーカス・ヒンダー 会長からの手紙



WDSFルーカス会長と山田専務理事(10月10日は朝から雨でした)

JDSF山田専務理事との

2018年のブエノスアイレス2018年のYouth Olympic Games (YOG) が終わり、ダンススポーツの歴史の中で初めてのオリンピックメダルイベントを成功に導かれた、貴殿とJDSF(日本ダンススポーツ連盟)に感謝の意を伝えたいと存じます。YOGでの素晴らしい雰囲気の中でRAMとShigekixが大勢の観客を前に素晴らしい演技を目の当たりにし、とても嬉しく思いました。Ramが獲得したダブルの金メダルとShigekixが獲得した銅メダルを受賞した日本代表にご祝辞を申し上げます。何と素晴らしい成果なのでしょう!

ダンススポーツの24人のダンサーはアルゼンチンで素晴らしい経験を積むことが出来ました。これらのYOGにおいて体験したさまざまな文化のおよび教育的プログラムを通じ、選手としてのキャリアにも、私生活においても、長期にわたってプラスの影響を与えることと存じます。

World DanceSport Federation (WDSF) がYOGに参加したことは素晴らしい経験であり、デジタルによる予選や近代的な審判システムなどにおいて、さまざまな革新をもたらすことができました。ブエノスアイレス2018の大会では、WDSFがIOCにとって信頼できるパートナーであることを示すことができ、オリンピックムーブメントの期待に沿った質の高いレベルのイベントを提供することもできました。

私は個人的にも貴殿及びJDSFに、本プロジェクトを通してご支援とご助力をいただいたことに改めて感謝申し上げたいと思います。私はまたYOGでの経験は、オリンピック大会におけるWDSFとダンススポーツの成功のための基盤を確立した、と深く確信する次第です。

敬具
ルーカス・ヒンダー WDSF会長

ユースオリンピック特集Ⅲ

第3回ユースオリンピック競技大会2018 (Buenos Aires 2018 Youth Olympic Games)

ユースオリンピック競技大会は、15歳から18歳までのアスリートを対象としたIOC主催の国際総合競技大会です。オリンピックと同じく夏季・冬季に分かれ、それぞれ4年ごとに開催。第1回夏季大会は2010年にシンガポールで開催され、205の国と地域から約3,600人の選手が参加、26競技201種目が実施されました。



ブエノスアイレスの港風景Ⅱ

第3回ユースオリンピック大会は2018年10月6日の開会式から18日の閉会式まで13日間にわたり、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスにおいて206の国と地域から3,997名のアスリートが参加し32競技241種目が開催。日本からは、陸上、水泳、ダンススポーツなど23競技に選手91名、役員44名の合計135名がJOCから日本代表団として派遣されました。選手団長は小谷実可子JOC理事、総監督は上野広治JOC理事、主将は卓球の張本智和選手、旗手はレスリングの鏡優翔選手が務めました。この大会では、空手、

ローラースポーツ、スポークライミングそしてダンススポーツの4つの競技が新たに加わり、日本選手団は金メダル16、銀メダル14、銅メダル14、合計44個のメダルを獲得、過去最大数のメダル獲得となりました。

ダンススポーツ／ブレイキン競技日本代表の記録

- ・監督 石川勝之 株式会社IAM代表
- ・男子 半井重幸 (B-boy : Shigekix) 大阪学芸高等学校 (2年)
男子個人 (B-boys) 銅メダル
- ・女子 河合来夢 (B-Girl : Ram)
神奈川県立百合丘高等学校 (2年)
女子個人 (B-Girls) 金メダル
ペア (Mixed Teams) 金メダル

ペア (Mixed Teams) 種目は、ユースオリンピックの国際交流精神を反映したのものとして実施され、表彰式の1～3位の国旗掲揚には、五輪の旗が3本掲げられました。Ram選手はB4選手(ベトナム)と組み金メダルを獲得、女子個人と合わせ2冠を達成しました。



メダルを手に！河合来夢選手と半井重之選手



ペア(Mixed Teams)種目の結果を待つ緊張の瞬間、半井選手、石川監督、そしてRamとB4(ベトナム)のペアチーム



海外メディアからインタビューを受ける



開会式を報じた現地の新聞(左から3人目がIOCトーマス・バッハ会長)



ブエノスアイレスの港をバックに！

★ユースオリンピック応援ツアー

時差12時間、まさにブエノスアイレスは日本の裏側、36時間の長旅、日本からの応援ツアーは、山田淳、居樹保朗、今泉清隆、神宮周二、一ノ瀬初男、宮崎多加子、金後優介、千野秀行、渡邊将広、野中泰輔、そして河合選手の母親の河合令子さん、現地で合流の半井選手の母親の半井路美さんです。



入場証のリストバンド

競技会場への入場は、事前登録する必要があり、JDSF事務所の村田寿美子さんから、オンライン登録をしていただきましたが、7月末から約40万人の申請応募があったということで、想定以上の申請で現地のシステムは停止状態となりました。現地での入手は可能というJOCの情報で10月4日成田発22時のエミレーツ航空機でドバイへ向かいました。ドバイまで11時間15分のフライト、ドバイで乗り換え3時間後に経由地リオデジャネイロまで14時間20分、リオからブエノスアイレスまで3時間30分、乗ってビックリ、12時間の時差で36時間の長旅。機内の窓は閉められたまま。食事タイムには機内照明は明るくなり、終ると照明は暗くなり、隣の人はいびきをかき寝入っていて、トイレもままならない難行苦行の旅でした。10月5日、ブエノスアイレス空港着でホテル(ウォルドーフホテル)に着いたのは現地時間の22時近くでした。

翌6日は朝からリストバンドを求めて競技各施設付近を右往左往、パスポートを提示して入手できたのは15時過ぎでした。早速、開会式目指して歩き出し、夕暮れ時にはなんとか会場付近にたどり着きましたが、既に凄い人、大群衆で歩くことも難渋。ステージに近づくことができないためでしょうか、大きなモニターも多数設置され、噂の物売りも大人だけでなく子どもも多々出現。治安不安のこともありましたが、朝からの歩きづめでややお疲れ、ホテルに戻りTV観戦となりました。

開会式は、オリンピック大会史上初めてスタジアムの外で行なわれ、アルゼンチンの独立記念日にちなんで7月9日大通り(Avenida 9 de Julio)において無料公開、誰でも参加できることで大変な混雑となりました。会場付近には、警備の警察官に加えて多くの男女の軍隊も大勢見うけられましたが、なんとなくのんびりした兵隊も結構見受けられました。(JDSF広報部顧問 神宮周二)



乾杯！競技は終了、安堵の石川監督



開会式での花火



選手村前にて



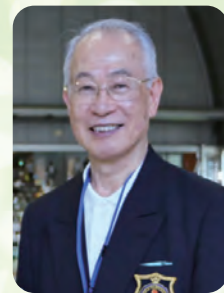
WDSF次期会長に就任するショーン・テイ氏(中央)と共に

2018ジュニアダンス



フェスティバルin静岡

静岡県ダンススポーツ連盟 競技本部長 溝口 稔
(JDSFジュニア育成部長)



静岡県ダンススポーツ連盟と静岡県ボールルームダンス連盟共催で第2回目となるジュニアダンス競技会を、今年11月4日に静岡市グランシップ交流ホールで開催いたしました。

周知のようにダンスのジュニア層の底辺を発掘、育成することはダンス界の将来を思うと非常に重要なことです。そのためには組織の垣根を乗り越えて協力しての活動が必要です。そのような目的をお互い理解あつての2回目のジュニア競技会開催となりました。今回、地元静岡県に神奈川県、東京都、山梨県からの参加協力を得て、61人の子供たちが参加してくれました。他にキッズダンスの演技発表に2チームの参加を得て、盛り上がりました。

競技には、下は5歳の子から、高校生までエントリーを頂き、ダンスを始めて間もない保育園児、小学生、中学生はサルサ、メレンゲ、サンバ、チャチャチャ、ワルツ、クイックステップの各単科のペア競技とサンバ、チャチャチャのソロ競技で競技を経験してもらい、本格的にダンス競技に取り組んでいるカップルは、ジュニア競技、ユース競技で技を競いました。10時から開始し、昼休みを挟んで17時終了と充実した競技会となりました。

きれいな会場で皆さん大変満足して競技を楽しんで頂き、帰り際にわざわざお礼のあいさつに来てくれる子供たちもいて感心致しました。

静岡県の中でも、サークルでダンスをしている子供や、ダンス教室でジュニアダンスを教わっている子供たちもいて、その子供たちが一堂に集まり競い合い、交流を深めたことも大変意義があったと思います。横のつながりができてくることが期待できます。

後で聞いたことですが、違うところでダンスを習っ

ている子供と大会で競いあい、負けて悔しかったので、もっとダンスに励み、今度は勝ちたいという子供もいたということ、とても頼もしいことだと感じました。

競技に慣れない子供たちも大勢いて、出遅れのないように注意を払いました。ヒート間違いか、勘違いか、なかなかフロアに出てこないカップルがいたりして、進行はだいぶ遅れました。そのような中で1次予選競技が始まると間もなくリーダーが退場してしまい、パートナー一人で踊っている子供がいました。後から聞くとリーダーは緊張のあまりお腹が痛くなってしまいトイレに駆け込んだそうです。しかしリダンスで上がり、その後も競技開始近くなるとトイレに行き、競技開始を待ってあげて競技したりしていましたが、結局そのカップルは優勝という微笑ましいこともありました。

キッズダンスの演技発表では2歳、3歳の子供もいて可愛いダンスを披露していただきました。中には泣いて踊れなくなる子供もいましたが、それも可愛いく、拍手と励ましがありません。

来年も11月3日に同じグランシップ交流ホールで開催が決定しています。今年より多くの子供たちが集まってくれて、より充実した大会になればといろいろと方策を考え、努力したいと考えています。



左から2番目が筆者、右端は金子和裕静岡県DS連盟会長（JDSF常務理事）

第14回

全国ダンススポーツ選手権島根大会

2018年11月11日(日) / 松江市玉湯体育館(島根県松江市玉湯町湯町)

島根県ダンススポーツ連盟は2005年(野島辰彦会長)に設立し、この大会も同年に第1回島根県ダンススポーツ競技出雲大会として開催され、野島辰彦会長他役員の方々のご尽力により、第14回大会を迎えました。関西や中四国各県、さらには九州長崎県や関東の千葉県からの参加もあり、延べ169組を数える大会となりました。

大会顧問を務める松浦正敬松江市長は「出雲風土記の時代から神の湯として親しまれている玉造温泉にようこそ。来年5月には10年に一度の三大船神事の一つ水都・松江の船神事「ホーランエンヤ」が開催されます。是非、足を

運びください」と挨拶。五百川純寿大会会長(島根県議会議員)は「毎年開催されるダンスの大会は、既に松江の風物詩です」、岡並宏山陰中央新報社常勤顧問は「野島DS連盟会長一年がかりの大会であり日頃の成果を発揮してほしい」と挨拶されました。今回もエントリーの早かった3組に出雲の新米が贈呈されました。

ホーランエンヤ
(絢爛豪華大船行列：城山稲荷神社式年神幸祭)



野島辰彦島根県DS連盟会長



松浦正敬松江市長(大会顧問)



五百川純寿島根県議会議員(大会会長)



岡並宏山陰中央新報社常勤顧問

シニアII A級 スタンダード



表彰式



優勝

八木方人・八木香代子組(愛媛県)



準優勝

庄野貢司・池田輝美組(広島県)
(B級スタンダード準優勝)

シニアII A級 ラテン



表彰式



優勝



準優勝

立山敏信・立山千代組(大阪府)
福田尊弘・砂原ひとみ組(島根県)

C級



C級スタンダード1



C級スタンダード2



C級ラテン

B級 スタンダード



表彰式

B級 ラテン



表彰式



スタンダードラテン
優勝

松田智也・松田百花組(愛媛県)



ラテン
準優勝

江田煌也・青戸智子組(島根県)

TOPIX 江田ファミリー



「早く煌也くんの身長が伸びて欲しい、伸びたら問題解決です」とお母さん

長女 江田結子 14歳 今後は陸上競技に転向します。

次女 青田智子 12歳

長男 江田煌也 9歳 ★江田家の希望の星

2018年7月のオールジャパンジュニア小学4-6年ラテンの部6位入賞した江田煌也・青田智子組は、今大会のB級ラテン2位、スタンダード3位入賞を果たしました。くにびき杯ジルバで煌也さん1位、結子さん2位、智子さん3位を取り、ノリに乗っています。

ねんりんピック富山2018



ダンススポーツ交流大会 夢つなぐ 長寿のかがやき 富山から

2018年11月4日(日)
氷見市ふれあいスポーツセンター

「全国健康福祉祭」は、60歳以上の方々を中心として、あらゆる世代の人たちが楽しみ、交流を深めることができる健康と福祉の総合的な祭典です。「ねんりんピック」の愛称で親しまれスポーツや文化など多彩なイベントが開催され、地域や世代を超えた交流の輪が広がっています。

昭和63年(1988年)に兵庫県で第1回大会が開催されて以来、毎年開催されており、今年「ねんりんピックとやま2018」が、11月3日(土)から6日(火)まで富山県15の市町村において史上最多の27競技が実施されました。ダンススポーツ競技が開催された氷見市は、富山県の西北、能登半島の東側の付け根に位置し、寒ブリなどの魚、氷見牛と呼ばれる牛肉も美味しく、豊かな自然の恵みに包まれた町です。



お土産販売の氷見市ふるさとコーナー

監督会議

大会に先立ち、監督会議が11月3日(土)に開催されました。大会運営の詳細な説明があり、背番号、安全ピン、ヒールカバーさらには昼食確認票などの配布がありました。また、開閉会式の説明、特に個人戦、団体戦のリダンス(復活戦)についても確認し、注意事項など詳細な説明が行なわれました。



監督会議
富山県ダンススポーツ連盟
笹山治一理事長(実行委員長)

開会式

北は北海道から南は沖縄県まで35都道府県と11都市から合計49チームが参加、プラカードを先頭に選手が入場しました。高田順一富山県DS連盟会長の開会宣言があり、林正之氷見市長は「いつまでも健康で、いきいきと暮らすことのできる社会は誰もの願い、ふれあいと活力ある長寿社会に寄与する“ねんりんピック富山”の氷見市での開催は大変有意義」と挨拶、堂故茂参議議員や嶋田茂氷見市議会議員も「歳を重ねてもスポーツや文化活動に親しみ、いつまでも健康でいきいきと暮らすことができるのは国民共通の願い。山の幸、海の幸をご堪能ください」のご挨拶をいただきました。



高田順一
富山県DS連盟会長



林正之
氷見市長



堂故茂
参議議員



嶋田茂
氷見市議会議員



開会式



選手宣誓をする日光他家志・日光節子組(富山県)

高齢者賞表彰

記念の楯と氷見牛(目録)が授与されました。



最高齢者表彰
男性 成田 昭さん(岡山県)86歳
女性 真先美那子さん(徳島県)85歳



高齢者賞表彰
鶴丸和義(福岡市)84歳
横田久雄(横浜市)84歳
松井清彦(奈良県)83歳
林 清子(岡山県)83歳
平越禮子(愛媛県)82歳
田辺キン(新潟市)82歳

特別賞



大会開催日の11月4日生まれ男女5名には氷見市特別賞として氷見牛が贈呈されました。

個人戦 表彰式



カトルツの部



夕シゴの部



ジュニア選手もお手伝い
大西陽来里(ひらり12歳)、安達りん橋(りんご12歳)、西嶋万葉(かずは13歳)、杉本夏奈(なな10歳)



チャチャチャの部



ルンバの部



おもてなしコーナーでは氷見牛、キトキトの大漁鍋も振る舞われました!

団体戦



アトラクション

越中万葉アトラクション

水見市は万葉集歌人大伴家持お気に入りへの地でした。生誕1300年にあたり、林正の水見市長自ら元宝塚月組夢羽美友さんと特別出演し、越中万葉をダンスで楽しむ会（八木三郎会長）の皆さんと家持の詠み歌を編曲、音楽をピアノ、箏の演奏、テノール歌手澤武紀行さんの歌とダンスで優雅に表現しました。



林正の市長と夢羽美友さん



ムジカグラート水見 マーチングバンド



水見有磯太鼓保存会

大会終了後会場は、気持ちを込めて水見市ふれあいスポーツセンターメインアリーナの床磨きです。来年是和歌山県的那智勝浦町体育文化会館において開催されます。みなさま、お疲れさまでした。



模範演舞

石原正幸・石原蘭羅組

それぞれ三笠宮杯スタンダード11連覇とラテン8連覇を達成し一時競技を引退していましたが、結婚後、2018年からPD部門で現役復活し仙台のグランプリPD戦で優勝。イタリア合宿などでトレーニングを重ね、音楽やリズム表現のみならず独自の個性的なステップも取り入れ、観衆を魅了するダンスを披露しました。



大西大晶・大西咲菜組

富山県出身の大学2年生と高校2年生の兄妹カップル。小さい頃から数々の競技会で活躍。ジュニア、ユースそして、現在は日本のみならず世界に通用するカップルに成長。文部科学大臣賞、富山県功労表彰や県体協の特別表彰等に輝く。若さ溢れるシャープな踊りの中にカップルとしての安定感のある素晴らしいダンスを披露しました。



石原組、大西組と、元宝塚月組夢羽美友さんと大会関係者

競技フォト集

スタンダード



ワルツ・タンゴ優勝：古澤誠・緑谷澄枝組（愛知県）



長谷川正人・長谷川さゆり組（兵庫県）

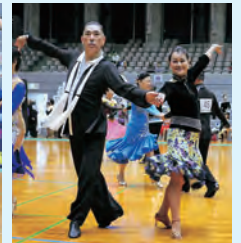
ラテン



チャチャチャ優勝：富山政輝・富山あい子組（茨城県）



ルンバ優勝：飯島昇・飯島ひとみ組（群馬県）



居樹保朗・居樹林子組（東京都B・東京都DS連盟会長、JDSF理事）



林伸男・林民子組（岐阜県DS連盟会長）



伊藤茂・伊藤千鶴組（名古屋市）



鈴木勝彦・鈴木洋子組（東京都）



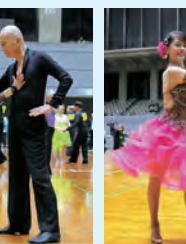
小原義明・小原かおる組（千葉県）



中村辰郎・中野久美子組（鹿児島県）



女性が最高齢の中滝建夫・真先美那子組（徳島県）



水野正彦・東海三重子組（富山県A）



ルーマニア～世界ジュニアIISt遠征

WDSF世界選手権ジュニアIIスタンダード

スポーツ振興基金助成事業
独立行政法人日本スポーツ振興センター

帯同役員 仲野 巽 (JDSF特任顧問)

1. 出発



2018年11月1日(木)、WDSF世界選手権ジュニアII(13才～15才)スタンダードに出場するために、代表選手、帯同役員、付添家族など7名のチームが羽田空港を出発して、開催地ルーマニアのシビウに向かうことになった。

私もルーマニアに行くのは初めてで、ハンガリーのさらに東の東欧諸国の一つくらいしか事前知識はなかった。ルーマニアではWDSF競技会は盛んなようで、毎年世界選手権も行なわれ、過去にルーマニアの選手が日本に来たこともある。

競技会が行なわれるのは首都ブカレストではなく、いつも地方都市のこのシビウか東のティミショアラのようである。今回の開催地シビウはルーマニア中央部に位置する古都とのことで、落ち着いた良い町らしい。

ただ、日本からの直行便はなく、ドイツかロシアで乗り継ぎ経由するしかない。今回もミュンヘン経由のルフトハンザ航空で飛んだが、シビウ行き乗り継ぎのためミュンヘン空港で約6時間の乗継待合わせになってしまった。目的地シビウについたのは0:55と深夜の到着で、計20時間の長旅となった。しかし選手たちは、いたって元気。

今回の日本チームは、山本壮真・三喜真梨奈組と木下将希・片岡まりの組のジュニア代表2組。そして帯同役員の私と壮真君のお母さんとまりのさんのお母さん、計7名の一行となった。

現地到着は、前日の乗継の問題で土曜日の早朝深夜(0:55)になったが、迎えのバスですぐにホテルへ入りしっかりと睡眠をとった。

翌朝は競技会前日ということで、帯同役員は近くの別ホテルに設けられた主催者デスクに向向いて、エントリー料を支払って背番号受取り、背番号の選手への手渡し・確認、翌日に向けての休養、調整の日になった。

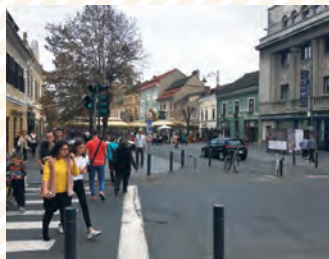
宿泊ホテルは、やや古いが立派な良いホテルで、スーパーも近くで水、食料の調達も楽であった。背番号を受取ったホテルの先が競技会場で、歩いて15分くらいと、

良いロケーションで、ほとんどの海外選手はこのホテルに宿泊していたようだ。

ホテルから北に延びる通りは、歩行者天国になっていてスーパー、カフェ、レストラン、お土産屋が並んでいたが、土曜日ということもあり、多くの人でにぎわっていた。

さっそく、その歩行者天国に出かけて食料など適当な買い物をした。この町はルーマニアの中央部トランシルバニア地方の中心都市で、ドラキュラ伝説の場所が近いが、お土産屋にはドラキュラ関連のものも数多く並んでいた。

この先が広場になっていて観光ポイントだったことは後で知ったが、明日が競技会ということで早々に引き上げて、ホテルで休養。



2. 競技



競技会場はトランシルバニア・スポーツセンター(ガラス張りのきれいなホール)。歩いて15分くらいの近くだったが、他国選手と一緒にバスで向かった。

大会は、「トランシルバニア・グランプリ」という名称のもと、11/3と11/4の2日間行なわれ、WDSF世界選手権ジュニアIIStをメインイベントにして、世界選手権シニアI10ダンス、World Open St&Laなどが開催される。



世界ジュニアの競技開始はお昼過ぎの12:45。

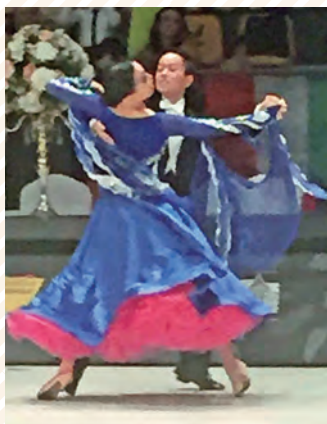
出場組数67組。山本組は背番号64、木下組は背番号24で世界に挑んだ。

残念ながら2組ともリダンスに回ったが、木下組はリダンスを突破して2次予選へ。しかし2次予選で敗退。全体の45位。山本組はリダンスで敗退(53位)となった。

1位、2位はロシア、3位地元ルーマニア、4位ドイツ、以下アゼルバイジャン、イタリア。

日本代表2組は、全体的には大変よく踊っていた。現在の持てる力をきちんと発揮したと思う。

彼らは、男女ともポスチャーはしっかりしていて海外選手に負けていない。また、技術的な大きな差も見られない。



(山本壮真・三喜真梨菜組)



(木下将希・片岡まりの組)

ただ、海外選手は平均的には日本選手より大きく、ジュニアでも180cmを超えと思われる選手も多くみられた。

さらに体格の大きさだけでなく、良く動く。ムーブメント(動き)やダイナミクス、パートナーリング、全体的な表現(アピール)では、かなりの差がある。

他の年齢区分と同様、ジュニアについてもロシア、東欧の選手が強い。体格も日本ジュニアに対して優位ではあるが、過去のように圧倒的な差ではない。体格の問題よりも、しっかりした技術とパワーを持って踊っていることが印象的だった。

ジュニアにしてダイナミクス、エネルギーを感じさせる踊りは、このままユース、アダルトに直結している感じがする。

彼らがユース、アダルトと進んでいくことを考えると、将来アダルトを含めて日本選手が勝負することは簡単ではない。日本もWDSFジュニアをターゲットにしたジュニアのトレーニング・育成を組織的に考え、実践していかななくてはならないということである。

やはり、また“ジュニア育成に戻ってきた”という感じを強く持って、帰国の飛行機に乗り込んだ。



モデル:三輪嘉広先生

誕生!! スリムストレッチ エンビ

超軽量のストレッチエンビを
キャンペーン価格15万(税別)から販売開始!
この機会に是非一度お試し下さい。

(キャンペーン期間 2019年5月31日まで)
納期は1~2ヶ月



東京・秋葉原 東京トリキン(株)

エンビのトリキン

TEL.03-3866-4854 FAX.03-3866-4033

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-4-1 <http://www.torikin21.com>
営業時間/月~金 10:00~18:30 土日祝 10:00~17:30

シニアⅢ東北選手権 第61回JDSF山形県ダンススポーツ競技会

2018年12月2日(日) / 山形県総合運動公園総合体育館



東北の冬は始まり、暖かな暖房の体育館で第61回JDSF山形県ダンススポーツ競技会は開催されました。会場は将棋と温泉で有名な山形県天童市にあり、陸上競技場、野球場などのスポーツ施設やいこいの広場、遊びの森などのレクリエーション施設が設けられている広い敷地内の一画にあります。

現在、都道府県会長の中で女性は二人、そのうちの一人が山形県DS連盟の会長 平井夏さんです。大会会長として運営と司会も担当、八面六臂の活躍。ご主人の事務局長 平井剛秋さんも実行委員長、スクルティニアとして運営に競技に大奮闘です。

競技はラテン種目から開始され、シニアⅢ A級ラテン(La)で優勝した笹原清彦・笹原富美子組はオナーダンスを披露、NHK山形テレビの取材も入り、競技会模様は当日の夕方放映

されるとのことでした。A級戦からD級戦、さらには、1級戦、2級戦もあり、シニアⅢのA級戦からD級戦まで、延205組が出場、激戦が繰り広げられました。

ハイライトのA級戦スタンダード(St)は父娘の親子カップル 大内彰・大内まい組が優勝、ラテンは、新潟大学舞踏研究会の学連選手 東野壮一郎・今成萌奈組が優勝に輝きました。A級St&La、シニアⅢ A級戦Stの優勝者はオナーダンスを披露、沢山の拍手が贈られました。



NHK山形テレビの取材!

A級戦スタンダード表彰式



- 優勝 大内 彰・大内 まい 組(福島県)
- 準優勝 及川 久隆・及川 加代 組(岩手県)
- 第3位 菅野 忠司・安藤登美子 組(山形県)
- 第4位 鎌田 真哉・鎌田みな子 組(群馬県)
- 第5位 佐藤 功・佐藤 明美 組(宮城県)
- 第6位 池田 謙二・池田香奈子 組(山形県)



及川久隆・及川加代 組(岩手県)



大内 彰・大内まい 組(福島県)(同La準優勝)

A級戦ラテン表彰式



- 優勝 東野壮一郎・今成 萌奈 組(新潟大学)
- 準優勝 大内 彰・大内 まい 組(福島県)
- 第3位 村山新太郎・石山志津子 組(山形県)
- 第4位 笹原 清彦・笹原富美子 組(山形県)
- 第5位 青柳 清・青柳かよ子 組(岩手県)
- 第6位 和知 重信・和知 嘉栄 組(福島県)



東野壮一郎・今成萌奈 組(新潟大学)



村山新太郎・石山志津子 組(山形県)



審判員一同



シニアⅢ A級戦スタンダード表彰式



- 優勝 菅野 忠司・安藤登美子 組(山形県)
- 準優勝 池田 謙二・池田香奈子 組(山形県)
- 第3位 東 成光・土田 園子 組(愛知県)
- 第4位 結城 定春・春山 栄子 組(福島県)
- 第5位 丸山 和彦・松田由美子 組(新潟県)
- 第6位 平井 剛秋・水口 栄子 組(山形県)



菅野忠司・安藤登美子 組
(山形県) (A級戦St第3位)



笹原清彦・笹原富美子 組(山形県)



シニアⅢ A級戦ラテン表彰式



- 優勝 笹原 清彦・笹原富美子 組(山形県)
- 準優勝 青柳 清・青柳かよ子 組(岩手県)
- 第3位 村山新太郎・石山志津子 組(山形県)
- 第4位 甲斐根康彦・大東 裕子 組(宮城県)
- 第5位 高橋 徹・高橋 紀子 組(山形県)



鈴木亮二・阿部ゆき 組
(福島県)

B級戦スタンダード表彰式



B級戦ラテン表彰式



佐藤雅彦・佐藤陽子 組
(秋田県)



シニアⅢ B級戦 スタンダード表彰式



トピックス

A級戦 スタンダード優勝・ラテン準優勝 大内彰・大内まい組(福島県)は、親子カップル!

2011年3月11日の東日本大震災の後、福島県で9月25日に初めて開催された「第25回福島県ダンススポーツ大会」(DDD61号に掲載)に出場し、「震災で避難している選手や、福島を去らなければならなかった選手の皆さんの分まで頑張ります!」と親子で選手宣誓、県知事杯争奪オープン戦で第3位入賞し、県知事杯を受賞しました。その時のまいさんはジュニアでしたが、現在は立派に成人、「お父さんは自分の相手をして踊ってくれているだけ」と笑顔で話してくれました。

B級スタンダードに出場!

大奮闘の山形県DS連盟事務局長
シニアⅢ C級戦 Stで優勝した
平井剛秋・水口栄子組



秋田大学競技ダンス部小原顧問は
A級戦StとシニアⅢ A級戦Stに
出場、いずれも準決勝進出!
小原久・滝田はつ子組(秋田県)

岡芳正・岡一恵組は
宮城県DS連盟第2代会長を
務めたベテラン選手



千葉則雄・千葉裕子組は
宮城県DS連盟事務局長で活躍



おめでとうございます!!

永井彰茨城県DS連盟会長「生涯スポーツ功労者」表彰の授与

2018年10月8日、文部科学大臣賞である「生涯スポーツ功労者」表彰をいただき、大変名誉なことであると思っています。この受賞に際しましては、先人のご苦勞・ご努力と合わせまして、共に活動してきました役員の皆様の代表として受賞しましたものと思います。

初代の小林苺会長が『ダンスは暗いところで踊ってはダメだ』また、『ダンスはスポーツでないとダメだ』と常に言っておりました。ダンスをダンススポーツとして普及拡大を図るべく、県体育協会の加盟に取組み平成2年3月に日本で初めて県体協（財団法人茨城県体育協会）に加盟が認められました。この加盟により、社交ダンスがダンススポーツ競技としてスポーツの地位を得ることができました。

また過去のパーティーは、うす暗いのが当たり前の時代でした。ダンスパーティーに出席するたびに、明るい照明の中でのパーティーをと働きかけ

ましたが、改革には20年以上の歳月がかかりました。

我々のダンススポーツ競技のように、社交ダンスから発展を遂げたスポーツは、歴史ある他の競技とくらべ、いまだ、スポーツ文化の遅れが見られます。多くの競技団体は自己競技種目を「スポーツ」として位置づけることで、普及や拡大を図ることを目指しています。対戦型ゲームであるeスポーツ（electronic sports）までがスポーツ性をアピールして国体に進出しようとしているのが昨今の動きです。スポーツとしてのダンススポーツを推し進め、今後も多くの国民に愛好していただけるダンススポーツをさらに普及したいと思います。

茨城県ダンススポーツ連盟会長
永井 彰 (JDSF理事)



受賞歴

2011年：財団法人茨城県体育協会の「体育功労者褒賞」を受賞。

2011年：日本体育協会・日本オリンピック委員会100周年記念事業にて「功労者」表彰を受賞。

次期全日本学生競技ダンス連盟会長に栗栖太氏が就任

2018年12月8日、JDSF（公益社団法人日本ダンススポーツ連盟）に加盟する全日本学生競技ダンス連盟の顧問会議が、獨協大学35周年記念館アリーナの会議室において、開催されました。2019年3月に定年を迎える館博会長は次年度の会長職を辞退され、東部学連（橋本大樹理事長）から、東京大学工学系准教授栗栖太氏の推薦があり、「皆様方のご協力を得て頑張りたい」と挨拶され、4月1日から就任が決まりました。

栗栖氏は工学博士、東京大学工学系附属水環境制御研究センター准教授。学生時代の1991年～1994年、東京大学運動会競技ダンス部に所属、ラテン選手として活躍されました。



全日本学生競技ダンス連盟の顧問会議（中央が館会長と栗栖次期会長）



館博会長（右）と栗栖次期会長（左）

全日本学連歴代会長

初代	星野昌一（東京大学）	1949年～66年（昭和24年～41年）
第2代	伊藤安二（早稲田大学）	1967年～82年（昭和42年～57年）
第3代	人見康子（慶應義塾大学）	1983年～91年（昭和58年～平成3年）
第4代	浦環（東京大学）	1992年～12年（平成4年～24年）
第5代	館博（東京農業大学）	2013年～18年（平成25年～30年）
第6代	栗栖太（東京大学）	2019年～（平成31年～）

全国都道府県代表・正会員会議（福井市）



全国都道府県対抗戦に先立ち10月20日（土）、福井市地域交流プラザ（アオッサ）6階において、全国都道府県連盟代表者会議（福井）が開催されました。

金子和裕常務理事の司会進行で会議は始まりました。山田淳専務理事からまずアルゼンチンの首都ブエノスアイレスで開催された第3回ユースオリンピックのダンススポーツ競技ブレイキン種目（DDD89号P10及び本誌P10～14参照）の日本選手の活躍について、超人気の新スポーツとして注目されている等の報告がありました。さらにJDSFが抱える大きな課題と将来展望について説明がありました。

ダンス人口の激減、都道府県連盟役員の高齢化、競技会出場者の減少、ボランティアの減少など、放置すれば組織の崩壊に繋がるとして、若年層へのアプローチやオリンピック・国体参加などを列挙。また、日本スポーツ協会にボールルームダンス競技とダンススポーツ競技の違いなどの説明を行なったこと、公益事業としてPDの活動理念に基づき適材適所でPD大同団結を目指すことなど、解決策に向けて説明がありました。なお、2019年1月1日より、JPDSA（日本プロフェッショナルダンススポーツ協会、2018年9月23日JPBDA日本プロフェッショナルダンサーズ協会に名称が戻りました）及びNJDC（新日本ダンス連盟）の主催競技会は、JDSF認定級「全日本ダンススポーツ統一級」の対象から外れたとの報告がありました。

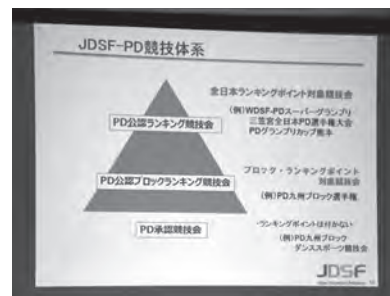
続いて松山光男企画委員会委員長から、「組織の若返りと競技会運営の改善」について“人は望まずとも老化をして行く運命であり、組織もまた老化は不可避である”として、解決は難しいが、アンチエイジング、リセット、イノベーターなどをキーワードに組織や競技会の見直しについて、地域ごとに環境が異なるので各都道府県から

の意見を取り入れ最善策を模索していくことが重要等の話がありました。蒲生競技部長からは、競技規程の改正（本誌P7参照）について説明があり、休憩をはさんで、仲野巽特任顧問（PD副本部長（本部長業務代行））から設立後約2年経過したPD部門の現況報告があり、さらなるGD部門の協力を呼びかけました。北牧雅文JDSF-PD西部ブロック事業部長から、どうやったらお客様にリピートしていただけるか、自分たちはどうしていくのか、何ができるのか、ダンススポーツを本当に知っていただけるかなど、JDSF-PD西部ブロックの取組みについて縷々説明がありました。

報告の最後は、中道俊之理事構造改革委員会・組織委員会委員長より、「GDとPDの融合連携について」ダンススポーツの将来に向けた発展のため、PDを包含したJDSFの会員制度、組織運営、事業展開、について改革に向けたロードマップ等で解説がありました。そして、若年世代向け普及施策についての必要性や新事業のねらいや期待される効果について解説がありました。

そして質疑応答があり、最後は明日の都道府県対抗戦に向けて、小形完治福井県DS連盟会長より説明がありました。

18時から懇親会は場所をホテルフジタ福井に移し、開催されました。役員や全国の都道府県代表者、PDの方々との意見交換は夜遅くまで続きました。



PDの活動理念

1. 我が国のダンススポーツの将来に向けた発展のために、会員の過去の競技実績の差異、現役・OBの差異、アマプロ差異などと無関係に、それぞれの分野の能力を活かしつつ平等の精神で民主的な組織運営を行う。
2. 過去に行われがちだった不公正なジャッジを完全に排除し、ダンススポーツとしての客観的かつ公正な審判が行われるような仕組みと管理を徹底する。
3. ダンスを職業とする者も職業としない者も、連盟の活動に於いては個人の利益を追求しない。

4. 全ての会員が協力一致してダンススポーツの国体、オリンピック参加を目指すとともに、地域での普及、ダンス文化再構築に尽力する。
5. PD部門選手についても連盟の選手強化事業の対象として競技力の向上を図るほか、選手の育成システムから、生活の場となる次世代型のダンスビジネスまで、協力してその開発に尽力する。
6. 選手はいかなる競技体系の競技会に出場することも自由であることを確認する一方、選手強化事業など特別な支援は、定款の目的に従ってWDSF体系、IOC/JOC体系の競技会を対象とする。

内閣総理大臣賞争奪

第26回都道府県対抗

全国ダンススポーツ大会 in 福井



2018年10月21日(日) / 福井市体育館

国内最大のスポーツの祭典である第73回国民体育大会は、2018年9月29日から10月9日まで「織りなそう 力と技と美しさ 福井しあわせ元気国体」として幸福度日本一といわれる福井県において盛大に開催されました。国体正式種目を目指す公益社団法人日本ダンススポーツ連盟 (JDSF) は、毎年、国体が開催された都道府県において都道府県対抗全国ダンススポーツ大会を実施しています。今回は福井県の県庁所在地福井市での開催です。JR福井駅西口駅前広場には福井のビッグブランドである恐竜の動くモニュメント等が設置され、JR福井駅舎の壁面にも恐竜イラストが描かれ「恐竜王国福井」がPRされています。

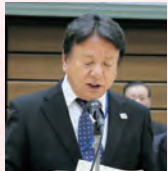
開会にあたり内田弥昭福井市教育委員会教育部長は東村新一福井市長の挨拶を代読され、歓迎の辞とともに「福井市には数多くの名所旧跡があり、豊かな自然にも触れていただき、是非、この機会に福井の良い思い出を作っていたきたい」と



内田弥昭福井市教育委員会教育部長



皆川信正市議会議員 (福井県DS連盟顧問)



開会宣言 小形完治福井県DS連盟会長



全米大会8度優勝、全日本チャンピオン 県立福井商業高校チアリーダー部「JETS」



「平成最後の都道府県対抗を燕尾服と綺麗なドレスで踊ることを誓います！」馬淵亮一・馬淵波邦美組 (福井県) の選手宣誓



わかり易い解説や進行説明を美しい声で司会する、細川崇子さんと山口剛競技本部長

挨拶。福井県DS連盟顧問の皆川信正市議会議員は「2024年パリオリンピック種目採用に期待がかり楽しみです。」と挨拶されました。

競技は9時、個人戦からスタートしました。A級スタンダードは優雅なダンスで定評の山田恭平・秋山彩織組、A級ラテンはオーナーダンスで弾ける様なジャイブを披露した海老原竜太・遊佐美優子組が実力を存分に発揮し優勝、文部科学大臣賞に輝きました。



★文部科学大臣賞に輝きました
海老原竜太・遊佐美優子組 (千葉県) 山田恭平・秋山彩織組 (東京都)

団体戦は、2017年から変更された国体年齢区分に従い少年AB(高三以下同性同士も可)、成年(大学生以上)、シニアII(45歳以上と40歳以上)、フリー(年齢オープン)で実施されています。北海道から鹿児島まで20都道府県からスタンダード21、ラテン17合計38チームが参加し、大声援のなか熱戦が繰り広げられました。

スタンダード、ラテン共に第1位の東京都チームが総合優勝を飾り、ラテン5位もスタンダード2位の神奈川県が頑張り準優勝、スタンダード5位の千葉県がラテン2位で第3位となり、優勝の東京都には山田淳専務理事から内閣総理大臣賞と優勝旗が贈られました。



総合優勝 東京都
中島洋子選手団長は「素晴らしい選手に出場して頂くことが出来優勝です。3連覇達成！来年の茨城大会もいただきます」



準優勝 神奈川県



来年の開催県茨城県チームの入場行進



シニアII A級戦スタンダード
優勝 千葉英明・千葉順子組 (岩手県)



第3位 千葉県



地元福井県選手役員一同

シニアIII A級戦スタンダード

優勝 谷口主嘉・谷口小夜子組 (京都府)
京都府DS連盟会長 12/9沖繩サントピア大会で競技を引退、お疲れ様でした！



A級戦 スタンダード



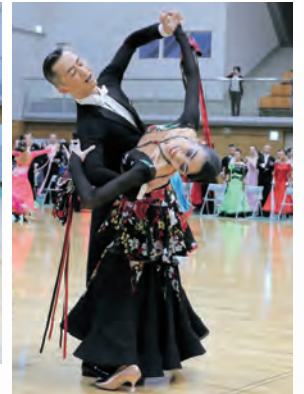
表彰式



第3位 岩崎将之・富岡采花組(神奈川県)



準優勝 太田歩生・松本京佳組(北海道)



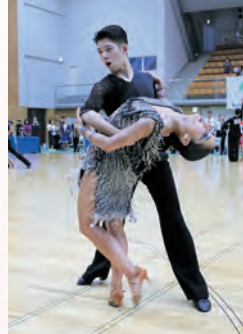
優勝 山田恭平・秋山彩織組(東京都)



優勝 海老原竜太・遊佐美優子組(千葉県)



準優勝 石田茂之・矢野美帆子組(茨城県)

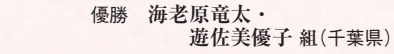


第3位 大矢健太・降旗友希組(Yas)

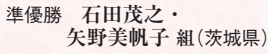
A級戦 ラテン



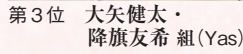
表彰式



優勝 海老原竜太・遊佐美優子組(千葉県)



準優勝 石田茂之・矢野美帆子組(茨城県)



第3位 大矢健太・降旗友希組(Yas)

B級戦



優勝 山下遥聖・山下実彩妃組(愛知県) B級戦 ラテン優勝



B級戦 スタンダード 表彰式



B級戦 ラテン 表彰式

C級戦



C級戦 スタンダード 表彰式



C級戦 ラテン 表彰式

★活躍の選手



清水久道・飯村美哉子組(東京都)



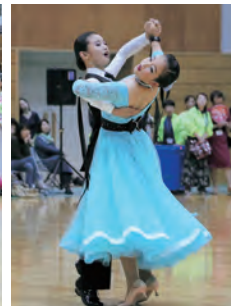
野田尚児・大村正子組(和歌山県)



川本 竜・川本弥由組(奈良県)



松浦龍騎・松浦優莉華組(宮城県)



西嶋万葉・岩崎咲希組(福井県)



中村エドワード・中村エリザベス永里組(東京都)



宇台孝之助・榮岩茉莉那組(大分県)



山本萌鉦・西 莉愛組(静岡県)



橋本琉正・野崎市花組(茨城県)



高杉耕一・高杉綾子組(東京都)

2019年
3月10日(日)
8:00~20:30(予定)

21st 東京オープンダンススポーツ選手権

興奮と感動の熱き競演!



駒沢オリンピックピク公園
総合運動場体育館



The 21st Tokyo Open DanceSport Championships
WDSF PD Super GrandPrix Standard
WDSF World Open Standard/WDSF International Open Latin

チケットはインターネットからも
購入できます!

e+ イープラス
<http://eplus.jp/jdsf/>

【入場券のお申込み】 JDSF会員は各所属団体へ

【一般入場券のお問合せ・お申込み】

大会事務局: 〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階
公益社団法人日本ダンススポーツ連盟「東京オープン実行委員会」

Tel:03-6457-1858 Fax:03-6457-1857

※電話でのお問い合わせは、13時~17時(土・日・祝日除く)にお願い致します

<http://www.jdsf.or.jp/> 日本ダンススポーツ連盟

ロチャース Presents

競技内容
WDSF PDスーパーグランプリ・スタンダード
WDSFワールドオープン・スタンダード
WDSFインターナショナルオープン・ラテン
U-23スタンダード / U-23ラテン

- 主催 / 公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟
- 特別協賛 / 北辰商事株式会社 ロチャース
- 後援 / スポーツ庁(申)・東京都(申)・
(公財)日本スポーツ協会(申)・
(公財)日本オリンピック委員会(申)・
毎日新聞社(申)

